1. 平成 22 年度事業報告書

目　次

1　概要 ---------- 1

2　会議・会合 ---------- 3

3　会員 ---------- 8

4　表彰 ---------- 8

5　粉体工業展 ---------- 10

6　常置委員会 ---------- 13

7　規格・標準委員会 ---------- 23

8　特別委員会 ---------- 28

9　分科会 ---------- 30

10　粉体工業技術センター ---------- 45

11　技術情報交流懇話会 ---------- 46

12　特別事業 ---------- 47

13　共催・協賛及び後援行事 ---------- 48

14　刊行物 ---------- 49

1.　平成 22 年度事業報告書

自　平成 22 年 4 月　1　日
至　平成 23 年 3 月 31 日

1. 概　要

昨年の我が国経済は、輸出や自動車、家電への政府支援策等で、個人消費の持ち直しもみられ、ゆるやかな景気回復基調が続いてきました。しかしながら年末に掛けての急激な円高、デフレの進行、海外経済の減速などから景気の動きに停滞感が感じられるようになりました。

このような環境下で、当協会も予算執行に当たっては、厳しいお願いをして参りました。会員各位のご支援と関係者のご努力により、その影響は最小限に留めることができましたが、3 月　11　日に発生した国内観測史上最大規模の東北地方太平洋沖地震は、いくつかの分科会活動にも影響を及ぼし、かつ予定していた委員会開催を中止せざるを得ない事態を招きました。被害を受けられた皆様には、心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。以下平成 22 年度の活動概要を報告いたします。

1）会員数について

総務委員会ほか会員各位のご努力により、平成 22 年度の法人会員の入会は 24 社、退会は 6 社、差し引き 18 社の増加となりました。

2）主な事業活動の概要

2．1）国際粉体工業展東京2010について

国際粉体工業展東京2010は、12 月 1 日から 3 日間、念願の東京ビッグサイトで開催いたしました。「不況」、「開催時期が悪い」、「出展料が高い」などの所謂三重苦のなかで、当初その結果が大いに危惧されましたが、東京粉体工業展委員会を始め、協会役員が一丸となって出展促進に努めた結果、265　社・団体、941　小間の規模で、14,881　名の来場者（新カウント方式による）を迎え、各種併催事業を併せ、成功裡に終了することができました。改めて会員の皆様のご支援・ご協力に厚く感謝申し上げます。

2．2）新法人への移行について

一昨年より新しい法人制度に対応すべく、種々検討と準備を進めてきましたが、昨年 10 月 15 日に、一般社団法人への移行認可を内閣府公益認定等委員会に電子申請いたしました。これまでの公益目的事業を5つの「継続事業」とし、且つ 2 つの「収益事業」と、1 つの「共益事業」に区分し、申請いたしました。

途中、4 回に渡る修正指摘に対応し、平成 23 年 2 月 7 日に「認可相当」との答申が委員会より内閣総理大臣に為され、3 月 22 日に、認可が下されました。

3 月 31 日をもって特例民法法人である社団法人日本粉体工業技術協会は解散し、保有する財産は新しい一般社団法人日本粉体工業技術協会へ移行し、公益目的支出計画を作成のうえ、「継続事業」に費消していくことになります。

2．3）ナノ粒子の安全性向上のためのガイドライン作成について

厚生労働省の通達「ナノマテリアルに対するばく露防止等のための予防的対応について」（平成　21　年　3　月　31　日発出）を受け、特別委員会を組織し、本通達に対応するガイドラインの作成に取組んできました。12　月　3　日、国際粉体工業展東京2010において、ガイドラインの考え方、ばく露防止に必要とされる計測法、ばく露防止対策の事例等についてセミナーを開催し、ガイドラインの考え方の一部を報告しました。

なお、コントロールバンディングなどについて検討すべき課題があること、およびガイドラインの参考にしているNEDOプロジェクト「ナノ粒子の特性評価手法に関する研究開発」の報告書の公開が平成　23　年度初めとなることから、活動を 1 年間延長します。

2．4）産学技術交流推進部門について

同志社大学微粒子科学技術センターが有する設備、人的資源を利用することにより、会員の研究調査実施拠点として活用を図るべく、本年 4 月より「先ず技術相談から！」を、会員に向けPRしました。

活動を開始した時点が遅かったこともあり、平成　22　年度は、教育部門のセミナー会場の利用（3　回）、技術相談数件に留まりましたが、粉体技術セミナー等の開催を通じて、その活用促進を広く呼びかけているところであります。

3）委員会、分科会、部門について

3．1）委員会の活動概要

14 の常置委員会、1 つの特別委員会が合計 39 回の本委員会、61 回の小委員会を開催し、活動しました。

・**総務委員会**は活性化小委員会を設置し、会員増強に取り組みました。また、印刷物として「事業案内（2010／2011 版　和・英）」、「会員名簿（平成 22 年/23 年度版　和・英）」の発行を行いました。

・**「粉体技術」編集委員会**は、協会発行へ切り替え後 1 年が経過した段階で、読者アンケートを実施し、読者ニーズを把握すると共に、粉体関連産業に関する情報誌としての内容充実に努めました。

・**海外交流委員会**は、中国・北京粉体工業展への協会ブースの出展（3 月 31～4 月 2 日）、中国・上海粉体工業展への協会ブース及び Japanese Pavilion への出展（9 月 27～29 日）、インド ChemTECH WORLD EXPO 2011（2 月 23～26 日）への協会ブースの出展を行いました。また、海外広報紙 APPIE Annual Report（英文版）を発行しました。

・**分科会運営委員会**は、拡大分科会運営委員会等を通じ、世話人との意思疎通を図りながら、活動の活性化と方向付けに努めました。

・**人材育成委員会**は国際粉体工業展東京2010における「学生交流会」を主催したほか、3 回の「営業・管理部門における若手のつどい」を開催しました。

・**標準粉体委員会**は、サブミクロン領域の粒子径測定装置試験用粒子 3 種類の開発を行いました。

・**規格委員会**は、規格・標準化事業成果の広報を「粉体技術」2 月号で行うと共に、（独）産業技術総合研究所から提案された、「圧蜜粉体のせん断特性測定方法の標準化」について、協会内の意見を取り纏め、共通測定や規格作成に協力すべく、委員の派遣を行うことを決定しました。

・**粉じん爆発委員会**は、安全研修への企画に積極的に取り組み、初級の「粉じん爆発・火災安全研修」に続き、中級研修を企画し、（独）労働安全衛生総合研究所との共催で、教育部門主催で実施しました。

3．2）分科会の活動概要

19 の分科会が、本会合44 回を開催し、活動しました。

全分科会がこれまでの活動を踏まえ、今後の活動継続について、見直しを行いました。18 分科会が今後もその活動を継続し、**電子写真技術分科会**が、その活動目的を達成したので、平成 22 年度で終了し、改めて「静電気利用技術」を調査・研究対象とした常置型分科会に生まれ変わる計画が提示されました。

4）粉体工業技術センター

3 部門を有する粉体工業技術センターでは、**教育部門**が例年通り、粉体入門セミナー（京都開催）、専門講座（5 分科会企画）、「粉体エンジニア早期養成講座」（9 科目）、「粉じん爆発・火災安全研修【初級】」、特別講座（1 講座）に加えて、新しく「粉じん爆発・火災安全研修【中級】」を開催しました。

製造事業部門は、当初の予想通りの実績をあげることができました。

〔**産学技術交流推進部門**は、2）－2．4）項に記載の通り〕

5）技術情報交流懇話会事業

平成 22 年度は火曜会 4 回、木曜会 4 回、水曜会・金曜会はそれぞれ 3 会合が開催され、延べ 913 名の方々が参加されました。金曜会は、開催場所を博多に固定することなく、広島、鹿児島での開催を実施しました。

7）細川明彦・佐知子基金事業

計画どおり運用管理規程に基づき、粉体工業展賞（1名）、東京国際粉体工業展賞（2名）への授与に対する補助を行いました。また、教育部門の特別講座（1 講座）及び粉体エンジニア早期養成講座（8 科目）に対する補助を行いました。

8）共催・協賛および後援事業

共催行事 5 件、協賛行事 29 件および後援行事 2 件の合計 36 件（昨年度は 36 件）の行事に参加いたしました。

上記の各事業のほか、期首に計画した各事業とも概ね順調に、且つそれぞれ有意義な成果を挙げることができましたことは、偏に会員各位のご協力とご尽力の賜と深く感謝申しあげます。

2. 会議・会合

2.1 第 29 回通常総会

日　時:平成 22 年 5 月 25 日(火)　13:00～15:10
場　所:東京・東京ガーデンパレス (3 階・平安の間)
(東京都文京区湯島 1-7-5)
出席者:出席正会員数 256 名 (出席:40 名、委任状提出:216 名)
(正会員総数:325 名)

議事に先立ち、ご来賓の経済産業省の課長補佐是永基樹氏からご挨拶を賜った。引続き江見 準会長の挨拶の後、総会議事に入った。豊見 昭事務局長より正会員総数 325 名(議決権総個数 325 個;法人 250 名、個人 75 名)に対し、当日正会員 40 名(当日全出席者111名)、議決権行使書面提出者 216 名、合計 256 名(議決権総個数 256 個)となり、出席者数は当協会定款 24 条に定める定足数、すなわち過半数の出席を得ていること、かつ第 37 条の定款の変更等に必要な正会員総数の4分の 3(244 名)以上の議決を得るに必要な議決権行使個数も得ていることより、本総会が有効に成立する旨の報告があった。よって、定款第 23 条に従い、江見 準会長が議長席に就き、開会を宣し、正会員の真鍋 功氏(真鍋工業㈱)、増田弘昭氏(京都大学名誉教授)を議事録署名人に選出後、議案審議に入った。

議事

第 1 号議案　平成21年度事業報告、決算報告及び監査報告について

辻 義廣専務理事から第 29 回通常総会資料に基づき、平成 21 年度事業報告並びに決算報告が行われた。メイン行事の粉体工業展大阪2009は成功裡に無事終了することが出来たほか、期初に計画した各事業は概ね順調に、かつ夫々有意義な成果を上げることが出来たこと、また、決算結果としても予算執行にあたり、グリーン料金支給の廃止、テレビ会議の活用、各事業費の一律 15%カットなど厳しい支出削減をお願いし、協力いただいた結果、当期経常増減額は△19,155 千円となり、期初予算(△32,579 千円)に対し大幅な改善結果で終えることが出来た旨説明があった。

引き続き新井英植監事より監査報告があり、計算書類は適正であり、且つ業務の執行状況は法令若しくは定款に反する重大な事実はない旨の報告があった。

審議の結果、全員異議なく、第1号議案は原案どおり議決された。

第 2 号議案:平成 22 年度事業計画案及び予算案について

辻 義廣専務理事から第 29 回通常総会資料に基づき、平成22年度事業計画案及び予算案の説明が行われた。平成 22 年度は、国際粉体工業展東京2010が東京ビッグサイトで初開催、新公益法人への移行認可申請、産学技術交流推進部門の立上げ、ナノ粒子の安全性向上のためのガイドライン完成等、重要な課題の説明があった。

また、予算については、各事業費の一律 5%カットをお願いし、経常増減額で 11,583 千円(経常収益 469,488 千円、経常費用 457,905 千円)のプラスになる予定であるとの説明があった。

審議の結果、全員異議なく、第2号議案は原案どおり議決された。

第 3 号議案:新しい法人制度に対する対応について

辻 義廣専務理事から第 29 回通常総会資料に基づき、新しい公益法人制度関連三法の施行に伴い、当協会は平成 22 年度秋を目途に一般社団法人へ移行すべく認可申請を行うこと、認可申請に際して、現在の事業活動をそのまま継続する「継続事業」(公益事業)と「その他事業」(収益事業及び共益事業)に区分して申請すること等説明があった。併せて、当協会が一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 45 条の認可を受け、同法第 121 条第1項において読み替えて準用する同法第 106 条第 1 項の移行の登記をすることを停止条件として、当協会の定款を当該認可の基準に適合するものとするため、別紙「定款の変更の案」のとおり変更したい旨を述べ、詳しい説明が行われた。

審議の結果、全員異議なく、第 3 号議案は原案どおり議決された。また「定款の変更の案」について、認可申請の途中で発生する軽微な修正及び字句等の変更については会長に一任することで、異議なく承認可決された。

第 4 号議案:理事及び監事の改選について

議長から理事及び監事全員の任期が本日をもって満了するので、平成 22・23 年度理事及び監事の改選に

ついて役員名簿(案)に基づき提案説明があり、真鍋功、島田啓司、大川原武、辻義廣、加藤文雄、増田弘昭、松島徹、渡部尚、中村康彦、田久保隆幸、竹内和、山田幸良、赤堀肇紀、谷本友秀、日高重助、野城清、綾部統夫、後夷光一、齋藤文良、杉山周宏、辻本進、堀哲郎、豊見昭、中川晴雄の 24 氏の理事重任、石田俊二、伊藤正康、遠藤茂寿、北﨑宏典、齊藤直史、竹内洋文、棚橋純一、田畑信行、野上宏、六車嘉貢、矢澤英実の 11 氏の理事新任及び菅原一博、新井英植の両氏の監事重任が全員異議なく、原案通り議決された。

第 5 号議案:会長への退任慰労金贈呈の件及び常勤役員報酬の件について

辻 義廣専務理事から、退任する会長に対する退任慰労金の贈呈及び常勤理事の報酬について説明があった。退任慰労金については、協会の過去の一定の基準による相当額の範囲内で贈呈することとし、その具体的な金額、贈呈の時期及び方法等は理事会に一任すること、及び常勤理事のうち、専務理事に選出される者の報酬については、協会「事務局幹部の年棒に関する内規」に示す年棒限度額を上限とし、その具体的金額等については理事会に一任することが、全員異議なく議決された。

報告事項1:役付き役員の互選について

議長から、休憩中に開催した第 2 回理事会で、第 4 号議案で選任された新理事による役付き役員の互選を実施し、以下の通り役付き役員が選出された旨、報告があった。

会 長	大川原 武	理事(新任)
副会長	真鍋 功	理事(留任)
	山田 幸良	理事(留任)
	増田 弘昭	理事(新任)
専務理事	辻 義廣	理事(留任)

なお、第 3 号議案で議決された「定款の変更の案」で、附則第 2 項における“本会の最初の会長は”大川原武新会長を代表理事として、認可申請を行うとの補足説明があった。

報告事項 2:粉体工業展・大阪2009の終了報告

大阪粉体工業展委員会委員長の島田啓司理事から、昨年 10 月 21 日～24 日の 4 日間インテックス大阪〔南港〕で粉体工業展・大阪2009を開催し、170 社・団体、563 小間の出展と12,407 人の来場者があり、盛況裡に終了したとの報告があった。

報告事項 3:粉体工業展名古屋2010の終了報告

名古屋粉体工業展委員会委員長の加藤文雄理事から、平成 22 年 4 月 14 日～17 日の 4 日間、一般社団法人中部包装食品機械工業会の「2010中部パック」との併催で、ポートメッセなごやで開催し、19 社・団体、74 小間の規模ながら、無事終了したとの報告があった。

報告事項 4:国際粉体工業展東京2010の開催案内

東京粉体工業展委員会副委員長の大川原正明理事から、資料「国際粉体工業展東京2010の開催案内」に基づき、本年 12 月 1 日～3 日の 3 日間「東京ビッグサイト」で国際粉体工業展東京2010を開催し、270 企業・団体、950 小間規模を目標に準備を進めているとの報告と、多くの併催行事及び新企画の展示を計画しているので、出展と来場者動員に協力して欲しいとの要請があった。

以上で第 29 回通常総会の議事を総て終了し、15 時 10 分、議長は閉会を宣言した。

引き続き 15:00 から協会賞および細川明彦・佐知子基金による粉体工業展賞の授賞式、ならびに粉体工業功績者表彰式が行われ(8 頁、**4. 表彰**を参照)、16:00 からは次の特別講演が行われた。

演題:「食品加工の変遷と粉体技術」
講師: 元 味の素㈱ 取締役
元 (社)日本粉体工業技術協会 会長 土井 修 氏

特別講演の終了後、17:10～18:30 にかけ、2 階・高千穂の間において懇親会を行った。

2.2　理事会

第１回理事会

日　時:平成22年5月13日(木)　14:30～16:40

場　所:大阪・ANAクラウンプラザホテル大阪(5階:ガーデンルーム)
(大阪市北区堂島浜1-3-1)

出席者:江見準会長、真鍋　功副会長、大川原武副会長、山田幸良副会長、辻　義廣専務理事を含め
理事22名、監事2名、顧問2名　合計26名

議　事:

第1号議案:入、退会会員について
第2号議案:共催・協賛及び後援行事について
第3号議案:代表幹事の交代と副委員長の再任について
第4号議案:平成21年度事業報告、決算報告及び監査報告について
第5号議案:第29回通常総会での議案追加の件
第6号議案:協会賞受賞者、粉体工業功績者及び細川明彦・佐知子基金による粉体工業展賞
受賞者の選考について
第7号議案:規定の一部改定について
第8号議案:平成22/23年度の役員について
第9号議案:上海粉体工業展(IPB2010)におけるJapanese Pavilion設置について
報告事項1:粉体工業展名古屋2010終了報告
報告事項2:会員名簿(和・英)/事業案内(和・英)の作成について
報告事項3:産学技術交流推進部門のPRパンフレットについて
その他

第2回理事会

日　時:平成22年5月25日(火)　14:00～14:50

場　所:東京・東京ガーデンパレス (2階:天空の間)
(東京都文京区湯島1-7-5)

出席者:(平成22・23年度新役員)
真鍋　功理事を含め26名、監事2名　合計28名
(平成20・21年度旧役員)
江見　準理事を含め7名、顧問2名　合計9名

議　事:

(1)会長の選出について
(2)副会長及び専務理事の選出について
(3)常務理事の選出について
(4)技術情報交流懇話会(火・水・木・金曜会)担当理事の選出について
(5)顧問及び参与の委嘱について

第3回理事会

日　時:平成22年8月3日(火)　13:00～17:00

場　所:東京・東京ガーデンパレス(3階:平安の間)
(東京都文京区湯島1-7-5)

出席者:大川原武会長、真鍋功副会長、増田弘昭副会長、辻義廣専務理事、加藤文雄理事を含め
理事23名、監事2名、顧問2名、合計27名

議　事:

第1号議案:入・退会会員について
第2号議案:共催・協賛及び後援行事について
第3号議案:副代表幹事の交代について
第4号議案:国際粉体工業展東京2010の実行予算について
第5号議案:前会長 江見　準氏への慰労金贈呈について

第6号議案:事務局員他の給与改定について
第7号議案:インドChemtech財団との「覚書」締結について
第8号議案:内閣府公益認定等委員会への申請について
(追加議案) 第9号議案:協会規定「入会申込書の処理に関する覚書」の改定について
報告事項1:粉体と工業社との「覚書」終了について
報告事項2:特別協賛会費の申込み状況について
報告事項3:平成22年度受託事業について
その他 :

第 4 回理事会
日 時:平成 22 年 11 月 25 日(木) 12:30〜15:40
場 所:京都・京都センチュリーホテル(1 階・瑞鳳西の間)
(京都市下京区東洞院塩小路下ル東塩小路町 680)
出席者:大川原武会長、真鍋功副会長、増田弘昭副会長、辻義廣専務理事を含め理事 30 名、監事 2 名
顧問 3 名、合計 35 名
議 事:
第 1 号議案:入、退会会員について
第 2 号議案:共催、協賛及び後援行事について
第 3 号議案:副担当理事及び副委員長の新任、並びに副コーディネータの退任について
第 4 号議案:粉体工業展大阪2011に係わる粉体工学会との覚書締結について
第 5 号議案:粉体工業展大阪2011に係わる㈱シー・エヌ・ティtの業務委託契約について
第 6 号議案:㈱粉体と工業社との覚書締結について
第 7 号議案:平成 22 年度分科会功労賞の選考について
第 8 号議案:平成 23 年度協会主要行事日程について
(追加議案)
第 9 号議案:協会規定「分科会功労賞表彰規程」の改定について
第 10 号議案:業界標準契約約款モデル(日食工)について
報告事項 1:平成 22 年度上期会計報告
報告事項 2:平成 23 年度新個人会員の推薦募集及び入会審査について
報告事項 3:平成 22 年度分科会連絡会議及び委員会・部門連絡会議の開催について
報告事項 4:粉体工業展大阪2011の計画概要について
報告事項 5:ワールドインシュアランスブローカーズ㈱PL保険の募集について
報告事項 6:常勤職員(1 名)採用の件(協会本部)
そ の 他 :＊編集倫理綱領の制定について
＊移行認可電子申請の件

第 5 回理事会
日 時:平成 23 年 3 月 18 日(金) 13:00〜17:00
場 所:大阪・ANAクラウンプラザホテル大阪(5階:ガーデンルーム)
(大阪市北区堂島浜1-3-1)
出席者:大川原武会長、真鍋功副会長、山田幸良副会長、増田弘昭副会長、辻義廣専務理事
を含め理事 21 名、監事 1 名、合計 22 名
議 事:
第 1 号議案:入、退会会員について
第 2 号議案:共催、協賛及び後援行事について
第 3 号議案:分科会世話人、委員会正副委員長の交代と再任について
第 4 号議案:委員会の新設及び特別委員会の期限延長について
第 5 号議案:分科会の継続、廃止及び新設について
第 6 号議案:規定の一部改定について
第 7 号議案:平成 23 年度の事業計画及び予算(案)について
第 8 号議案:平成 23 年度の受託事業について
第 9 号議案:第 30 回定時総会について
第 10 号議案:月刊誌「粉体技術」のインターネット販売について
報告事項 1:国際粉体工業展東京2010の決算報告
報告事項 2:平成 22 年度決算見通しについて

報告事項 3:一般社団法人への移行認可申請の経過について
その他

2.3 秋期定例会合

日　時:平成 22 年 11 月 25 日(木)　15:00～18:30
場　所:京都・京都センチュリーホテル(1 階・瑞鳳西の間)
(京都市下京区東洞院塩小路下ル東塩小路町 680)
出席者:大川原武会長、真鍋功副会長、増田弘昭副会長、辻義廣専務理事を含め合計 83 名

次　第:

1. 協会挨拶　会　長　大川原　武
2. 来賓式辞:　経済産業省産業機械課　課長補佐　伊藤　恒之　氏
鈴木　慎一郎氏
3. 報告:平成 22 年度協会事業及び会計の上半期報告
専務理事　辻　義廣
3. 特別講演
演題:『日本発CD-Rの開発とものづくり』
講師:名古屋工業大学　産学官連携センター　浜田　恵美子　氏
4. 懇親パーティ(1 階・瑞鳳東の間)

2.4 分科会連絡会議

日　時:平成 23 年 1 月 21 日(金)　13:00～17:30
場　所:名古屋・名鉄グランドホテル(11 階・柏の間 A・B)　(名古屋市中村区名駅 1-2-4)
出席者:大川原武会長、を含め 80 名

1. 開会挨拶　会 長　大川原　武
2. 協会からの報告と連絡事項　専務理事　辻　義廣
3. 分科会報告　各代表幹事
4. 第 6 回分科会功労賞表彰式　会 長　大川原　武
5. 分科会自由情報交換会　分科会運営委員会
6. 総合討議　分科会運営委員会
7. 粉じん防爆の規制に関する法改正について(意見聴取)
粉じん爆発委員会
8. 閉会挨拶　副会長　山田　幸良

第 6 回分科会功労賞は 7 名の方々が受賞された。(9 頁　**4.5 分科会功労賞**を参照)
会議終了後、11 階柏の間・D において 18:00～20:00 の間、分科会連絡会議および委員会・部門連絡会議参加のメンバーによる懇談パーティが行われた。

2.5 委員会・部門連絡会議

日　時:平成 23 年 1 月 22 日(土)　9:30～15:00
場　所:名古屋・名鉄グランドホテル(11 階・柏の間 A)
出席者:大川原武会長含め 38 名

1. 開会挨拶　会 長　大川原　武
2. 協会からの報告と連絡事項　専務理事　辻　義廣
3. 各委員会・部門の現状と平成 23 年度の
計画について　各委員会・部門代表
4. その他(委員会、正副部門運営に係わる全般事項等の討議)
5. 閉会挨拶　副会長　増田　弘昭

2.6 委員長連絡会

第 1 回　(通算 50 回)　平成 22 年 6 月　16 日(水)　名古屋・出席者 16 名
第 2 回　(通算 51 回)　平成 22 年 9 月　9 日(木)　大阪・出席者 15 名

2.7　常務会

第 1 回　（通算 26 回）　平成 22 年　4 月 13 日(火)　　東京・出席者 11 名
第 2 回　（通算 27 回）　平成 22 年　7 月 13 日(火)　　東京・出席者 14 名
第 3 回　（通算 28 回）　平成 22 年 11 月 17 日(水)　　名古屋・出席者 11 名
第 4 回　（通算 29 回）　平成 23 年　3 月 10 日(木)　　大阪・出席者 12 名

2.8　監査会

日　時：平成 22 年 4 月 26 日(月)　15:30～17:00
場　所：京都・協会本部会議室
出席者：菅原一博、新井英植　両監事
　　辻義廣専務理事、豊見　昭事務局長、井内和代総務課長、山田経理担当
議　事：平成 21 年度収支決算、貸借対照表、財産目録の監査並びに業務監査

3. 会　員

3.1　会員数

	平成 21 年度 終了時	平成 22 年度		
		入　会	退　会	終了時
正会員	328	25	9	344
法人	252	24	6	270
個人	76	1	3	74
賛助会員	9	0	0	9
合　　計	337	25	9	353

（平成 23 年 3 月 31 日付）

3.2　入会者

1）法人会員（24 社）
①澁谷工業㈱、②マツバラ金網㈱、③東京ダイレック㈱、④㈱平沼精密、⑤花王㈱第 6 研、⑥㈱タナベ、⑦㈱ナノシーズ、⑧ヤマト機販㈱、⑨白石カルシウム㈱、⑩㈱リキッドガス、⑪ATEX 爆発防護、⑫エイクル㈱、⑬御国色素㈱、⑭㈱ユニックス、⑮マイクロメリティックスジャパン合同会社、⑯㈱シンキー、⑰スペクトリス㈱、⑱日本ストック㈱、⑲超音波工業㈱、⑳タケモトデンキ㈱、㉑北川鉄工所、㉒㈱アイシンナノテクノロジーズ、㉓協和ステンレス㈱、㉔パウダーテック㈱

2）個人会員(1 名)
松坂　修二　氏

3.3　退会者

1）法人会員（6 社）
①㈱アール・アンド・イー、②エクセン㈱、③中央自動車工業㈱、④JSR㈱、⑤GEAプロセスエンジニアリング㈱、⑥㈱タイエスト

2）個人会員　（3 名）
薄井　洋基　氏、河村　光隆　氏、山口　智之　氏

3）賛助会員
なし

4.　表　彰

5 月 25 日(火)、第 29 回通常総会に引続き、第 24 回協会賞授賞式、第 17 回粉体工業展賞、第 6 回大阪粉体工業展賞ならびに第 24 回粉体工業功績者の各表彰式を行った。

4.1 協会賞（第 24 回）

功労賞　松島 徹　氏　（協会 理事、株式会社松島機械研究所）
　　島田 啓司 氏　（協会 理事、株式会社菊水製作所）
技術賞　吉田 英人 氏　（協会 個人会員／広島大学大学院）
　　遠藤 茂寿 氏　（協会 個人会員／(独)産業技術総合研究所）

4.2 粉体工業展賞（第 17 回）〔細川明彦・佐知子基金〕

杉山 周宏 氏　（協会 理事、杉山重工株式会社）

4.3 大阪粉体工業展賞（第 6 回）〔細川明彦・佐知子基金〕

宮原 稔　氏　（協会 個人会員／京都大学大学院）
後藤 邦彰 氏　（協会 個人会員／岡山大学大学院）
寺田 勝信 氏　(真鍋工業株式会社)

4.4 粉体工業功績者表彰（第 24 回）

【表彰項目別・法人会員名簿順】

No	所属名	氏名	項目	No	所属名	氏名	項目
1	三興空気装置㈱	友金 悦宏	技術	17	フロイント産業㈱	田口 良保	製造
2	㈱品川工業所	久重 久美	技術	18	麻益㈱	鵜飼 厚史	営業
3	東洋ハイテック㈱	石那田 靖	技術	19	㈱大川原製作所	加藤 健	営業
4	㈱徳寿工作所	堀合 誠	技術	20	㈱島津製作所	浅見 直伸	営業
5	㈱中島製作所	小島 勝彦	技術	21	㈱ダルトン	村田 義弘	営業
6	日本エアー・フィルター㈱	岡本 正行	技術	22	㈱奈良機械製作所	田邉 文明	営業
7	不二パウダル㈱	利根川 秀男	技術	23	日本化学機械製造㈱	栄 築	営業
8	兵神装備㈱	助永 明寿	技術	24	日清エンジニアリング㈱	中村 理	営業
9	㈱マキノ	篠原 演生	技術	25	㈱パウレック	松本 敏弘	営業
10	㈱増野製作所	遠藤 悦治	技術	26	ホソカワミクロン㈱	足立 陽一	営業
11	㈱村上精機工作所	谷口 巧	技術	27	真鍋工業㈱	原田 昌龍	営業
12	塩野義製薬㈱	平田 眞造	製造	28	明治機械㈱	荒木 真一	営業
13	㈱セイシン企業	矢島 正博	製造	29	ユーラステクノ㈱	権田 晴海	営業
14	中央化工機㈱	大嶋 栄治	製造	30	エステック㈱	猪瀬 一夫	生産
15	ツカサ工業㈱	稲生 功	製造	31	クノール食品㈱	鈴木 幸治	生産
16	㈱西村機械製作所	中久保 隆三	製造	32	㈱西村機械製作所	石垣 勉	生産

（表彰項目内訳：技術開発 11 名、製造技術 6 名、営業活動 12 名、生産管理 3 名、 計 32 名）

4.5 分科会功労賞（第 6 回）

平成 23 年 1 月 21 日、分科会連絡会議の席上において、下記 7 名の方々が受賞した。

（氏名 50 音順）

No.	氏 名	分科会名	勤務先
1	荻田 哲也	リサイクル技術分科会	赤武エンジニアリング㈱
2	高橋 謙之	晶析分科会	月島機械㈱
3	辻本 進	乾燥分科会	味の素㈱
4	藤井 淳	造粒分科会	㈱栗本鐵工所
5	藤本 正孝	粒子加工技術分科会	旭化成ケミカルズ㈱
6	堀合 誠	分級ふるい分け分科会	㈱徳寿工作所
7	宮本 智三	バルクハンドリング分科会	エステック㈱

（敬称略）

5. 粉体工業展

5. 1 粉体工業展名古屋2010

開催テーマ:新産業・新技術への架け橋　粉づくり・ものづくり・夢づくり―粉の技術―
会　期:平成 22 年 4 月 14 日(水)～17 日(土)　10:00～17:00
会　場:愛知・ポートメッセなごや
併　催:2010中部パック〔主催:(一社)中部包装食品機械工業会・開催規模:169 社 577 小間〕
後　援:中部経済産業局、愛知県、三重県、岐阜県、名古屋市、名古屋商工会議所
協　賛:粉体工学会、中部包装食品機械工業会、(独)産総研中部センター、(財)名古屋産業科学研究所、(独)科学技術振興機構 JST イノベーションプラザ東海、愛知県産業技術研究所、名古屋市工業研究所、(財)ファインセラミックスセンター、(社)日本セラミックス協会、(財)中部科学技術センター、愛知県陶器瓦工業組合
開会式・懇親パーティ:　開催初日 4 月 14 日(水)、開会式と懇親パーティが開催された。
開催規模:19 社、74 小間
来場者:中部パック発表 63,375 名　(内、粉体工業展名古屋2010招待状持参者は 1,514 名)
併催行事:

○　特別講演(参加者 128 名)　4 月 14 日(水)　13:00～14:30
　会場:交流センター3 階会議ホール
　演題:「産学連携による人材育成と大学の使命」
　講師:松井　信行氏(名古屋工業大学前学長)

○　最新情報セミナー(参加者　延べ 284 名)
　4 月 14 日(水)～16 日(金)　3 日間とも　11:00～12:00
　会場:会場内特設スタジオ(定員 80 名)
　演題と講師:
　　4 月 14 日(水)「電池製造に絡む最新情報」(参加者 101 名)　境　哲男氏〔(独)産総研〕
　　4 月 15 日(木)「粉じん爆発　最小着火エネルギーの測定」(参加者 109 名)
　　荷福　正治氏〔(独)産安研〕
　　4 月 16 日(金)「ナノ中空粒子からはじまる不思議な世界」(参加者 74 名)
　　藤　正督氏(名古屋工業大学)

○　協会コーナー
　協会活動内容の紹介パネル、「粉体技術」の紹介と PR、国際粉体工業展東京2010の PR、19分科会の活動パネルの展示、パウダーテクノロジーシアターによるDVD の放映、「粉体技術総覧」の無料配布など

○　技術相談　(相談件数　20 件)

○　出展社プレゼンテーションコーナー(参加者　延べ 289 名)　5 社

5. 2 国際粉体工業展東京 2010 (POWTEX TOKYO 2010)

5.2.1 概要

開催テーマ:この一粒・・・夢をかたちにー粉の技術ー
会　期:平成 22 年 12 月 1 日(水)～3 日(金)　10:00～17:00
会　場:東京・東京ビッグサイト　東1・2・3ホールおよび会議棟
後　援:経済産業省／農林水産省／文部科学省／環境省／(独)産業技術総合研究所／(独)労働安全衛生総合研究所／日本貿易振興機構(ジェトロ)
特別協賛:粉体工学会／(社)化学工学会／製剤機械技術研究会／日刊工業新聞社／フジサンケイ ビジネスアイ
協　賛:塩ビ工業・環境協会／カーボンブラック協会を含む 61 団体
海外協賛:中国顆粒学会を含む4団体
展示規模:265 社・団体／941 小間
来場者:14,881 名(新カウント方式による)
同時開催:

□粉体工学会　秋期研究発表会(主催:粉体工学会)
　会期:11 月 30 日(火)、12 月 1 日(水)
　会場:東京ビッグサイト会議棟
　参加者:延べ 219 名

□学生交流会(企画:(社)日本粉体工業技術協会　人材育成委員会)
　日時:12 月 1 日(水)　10:00～13:30

参加者:学生ツアー　82 名(学校 19 名、企業 49 名、協会関係者 14 名)
学生交流会 103 名(学校 19 名、企業 49 名、協会関係者 35 名)

併催企画:

□カタログコーナー

新製品・新技術 5 社 7 種類、ロングセラー製品 4 社 4 種類のカタログを展示。

□製品技術説明会

会期:12 月 1 日(水)～3 日(金) 11:00～16:00
会場:会場内 A ルーム・B ルーム・C ルーム
セッション数:47　(各テーマ 30 分　定員 80 名)
参加者:延べ 2,107 名

□特別展示ゾーン出展社プレゼンテーション

会期:12 月 1 日(水)～3 日(金)
会場:粉の広場隣接特設会場
参加者数:延べ 316 名
・ナノパーティクルテクノロジーゾーン　12 月 1 日(水)13:00～16:10　8 社
・二次電池展示ゾーン　12 月 2 日(木)13:00～14:30　3 社
・米粉情報展示ゾーン　12 月 3 日(金)13:00～15:45　7 社

□アカデミックコーナー(プレゼンテーションとポスターセッション)

日時:12 月 2 日(木) 10:30～11:45 プレゼンテーション(発表者 15 名)
会場:粉の広場隣接特設会場
参加者:44 名
11:45～12:30 ポスターセッション
会場:粉の広場
12:30～14:00 表彰式
会場:東1ホール主催者事務室
受賞者 優秀研究賞 名古屋工業大学 白井 孝氏
研究奨励賞 大阪大学 長島一樹氏
名古屋工業大学 渡辺秀夫氏

□粉体シミュレーションの動画紹介

粉の広場の 3 箇所で、大学で研究されている粉体シミュレーションを分野ごとに動画で紹介した。 動画提供大学:7 大学 13 動画の提供があった。

□粉体技術機器・装置博物館コーナー

粉体技術機器・装置の原点を知っていただくためのコーナーを設置
11 社より 13 種類の機器・装置・資料の提供があった。

□パウダーテクノロジーシアター

研究者の方々から提供された粉体技術に関する映像、TV 放映された映像、協会監修の DVD などを特設会場で放映した。

併催セミナー・フォーラム:

□特別講演

日時:12 月 1 日(水)15:00～16:30
場所:東京ビッグサイト会議棟レセプションホール B
演題:「リチウムイオン二次電池の開発経緯と現在の状況」
講演者:旭化成㈱フェロー　吉野 彰氏
参加者:247 名

□最新情報フォーラム

◆「ナノパーティクルテクノロジー関連」

日時:12 月 1 日(水)　10:30～12:30
場所:展示会場内特設会場
参加者:175 名
プログラム:10:30～11:30「超臨界水中での有機無機ハイブリッドナノ粒子の合成」
東北大学　阿尻 雅文氏
11:30～12:30 「生産用マイクロリアクターによる液滴、微粒子の厳密製造法」
京都大学大学院 前 一廣氏

◆「クリーンエネルギー関連」

日時:12 月 2 日(木)　13:00～15:00
場所:展示会場内特設会場

参加者:167 名
プログラム:13:00～14:00「地下資源文明から離陸―自然と共生するものづくりのかたち―」
東北大学大学院　　石田　秀輝氏
14:00～15:00「太陽光発電―21 世紀の選択―」
東京工業大学　　黒川　浩助氏

◆「米粉情報関連」
日時:12 月 3 日(金)　11:00～12:00
場所:展示会場内特設会場
参加者:112 名
プログラム:11:00～12:00「米粉ビジネスの展望」
(財)日本穀物検定協会　　荻田　敏氏

◆「二次電池関連」
日時:12 月 3 日(金)　13:00～15:00
場所:展示会場内特設会場
参加者:161 名
プログラム:13:00～14:00「二次電池革新のための新規材料技術」
東京工業大学大学院　　菅野　了次氏
14:00～15:00「リチウムイオン二次電池と粉体技術」
西　美緒技術研究所　　西　美緒氏

□セミナー

◆粉じん爆発情報セミナー
日時:12 月 2 日(木)　13:15～17:00
場所:東京ビッグサイト会議棟レセプションホール B
参加者:約 164 名

◆粉体シミュレーションへの誘い
日時:12 月 2 日(木)　11:30～12:30
場所:展示会場内特設会場
参加者:156 名

◆ナノ物質ばく露防止技術セミナー
日時:12 月 3 日(金)　10:30～12:30
場所:粉の広場隣接特設会場
参加者:131 名

5.2.2 オープニングセレモニー

日　時:12 月 1 日(水)　9:50 より
会　場:東京ビッグサイト　東 3 ホール受付前特設会場
参加者:約 170 名
主催者挨拶:(社)日本粉体工業技術協会会長　大川原　武氏
開会宣言:東京粉体工業展委員会　委員長　　谷本　友秀氏
テープカット:全 6 名

5.2.3 開催記念レセプション

日　時:12 月 1 日(水)　17:30 より
会　場:東京ビッグサイト会議棟レセプションホール B
参加者:約 270 名

5.2.4 技術相談コーナー

会　期:12 月 1 日(水)～3 日(金)の 3 日間、13:30～16:10
場　所:協会ブース
相談件数:88 件（毎日 4 名の相談員にて対応）

5.2.5 主催者コーナー

・ 協会活動案内
・ 分科会パネル展示:　19 分科会の紹介とテーマ毎近未来技術を中心にパネル展示。
・ 標準粉体展示コーナー

5.2.6 粉体技術総覧 2010／2011の配布

先着来場者に無料配布した。(冊子、CD-Rom)

6 常置委員会

6.1 総務委員会 （辻本 進 委員長、杉田 稔 副委員長）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

1) 印刷物の作成・発行

①「事業案内」(2010／2011 年版(和・英)の小改訂・発行　　和文 1,500 部、英文 500 部

②「粉体技術」編集委員会への参画

正副委員長が参画し、協会広報の立場・観点で誌面及び編集方針等について関与した。

2) 会員増強への取組み

以下のような活動を通じ、協会活動のPRと入会勧誘に努めた。

①活性化小委員会設置

会員増強を検討するWGとして発足。小委員会 2 回開催。展示会での回訪活動企画、協会活動の課題抽出等実施。今年度入会 24 社、退会 6 社。

②粉体工業展東京2010での非会員出展企業入会勧誘活動

101 社に回訪アポイントのアンケート実施。17 社回答。7 社会期中に訪問。その他 2 社から入会の問合せに対応。

③粉体工業展東京2010での非会員来場者等へのメルマガ発信。

潜在会員候補の裾野拡大及び「粉体技術」の購読会員拡大を通じた協会の広報活動。発信数約 10,000。

④秋田大学 講師派遣:2009 年度実施した東北地区会員勧誘活動を受け、秋田大学での講演会に講師を派遣する。主催は「日本素材物性学会」で、派遣実施は平成 23 年 6 月 21 日の予定。

3) 広報活動関係

①協会ホームページ(和・英)の逐次改定

ホームページ掲載内容の逐次見直しと改定を行った。平成 20 年 9 月 15 日～平成 21 年 9 月 14 日までの 1 年間のアクセス件数は約 120,000(10,000 件／月)である。前年比 14%増加。

① メールマガジンの発信

平成 21 年からの APPIE メールマガジンの発信を継続した。発信数は現在約 31,500 で、H22／H21 比で 39%増、更に逐次増加を図る。これによりホームページアクセス数が増加した。

③海外広報のあり方について海外交流委員会との協議を開始した。

④編集委員会 合宿、委員会に参加。広報の立場で意見具申。

4) その他

①40 周年(平成 23 年 12 月 1 日)記念行事準備:記念パーティの内容、記念講演、記念品の絞込み、年表作成について準備を進めた。(会長特命事項)

②総務委員会の業務所掌について協議・報告した。

(1)協会総務基本事項の総括、(2)協会広報活動の推進、(3)法人会員増強の推進、(4)協会ホームページの作成、管理及び維持、(5)会長特命事項 とした。

2. 実施した会合、会議について

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.6.15	京都・協会本部 会議室	14	1.H22 年度総務委員会の運営について 2.会員増強に対する総務委員会の対応 3.海外広報に関して 4.40 周年記念事業の具体化について 5.ホームページWG終了の件
2	H22.8.3	東京・東京ガーデンパレス	15	1.「委員会業務所掌規定」の見直し 2.総務・拡大小委員会について 3.40 周年記念事業の具体化について 4.その他
3	H22.10.5	同 上	13	1.活性化の活動について 2. 40 周年記念事業の具体化について 3.その他
~~4~~	~~H23.3.18~~	~~大阪・ANA クラウンプラザホテル大阪~~ （＊）	－	1.H22 年度事業総括と次年度の計画について 2.活性化小委員会の活動について 3.40 周年記念事業の進捗状況 4.「粉体技術」カメラルポの構成について

				5.海外広報 WG の設置について 6.秋田大学での技術講演について 7.FOOMA JAPAN の協会ブースについて 8.次年度の委員会開催予定日について

＊東日本大震災のため中止、メール会議に切り替え。

（小委員会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.9.13	東京・エスカイヤクラブ	6	1.会員拡大のための PR スケジュールについて 2.活性化のためのフリートーキング

6. 2　粉体技術編集委員会（大矢仁史 委員長、鈴木道隆 副委員長、谷 正美 副委員長）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

◎協会月刊誌「粉体技術」の発行

・各号以下のような特集を企画した。

・特集とは別に、連載企画の増に注力し、以下のような連載・コラム等を掲載することができた。

「技術者のための粉体入門講座」

「営業の ABC ～売れる条件、売れない理由～」

「事業繁栄の原理原則 ～伸びる会社はココが違う～」

「修己治人」、「粉惚最新」、「先達・達人の金言に学ぶ」など。

平成 22 年　4月号　協会を支える分科会活動
5月号　低炭素社会構築に向けて～二酸化炭素（CO2）25%削減に挑む～
6月号　レアメタルリサイクル
7月号　集塵技術の最前線
8月号　ソフトマテリアルの粉砕技術
9月号　製材技術の最新動向
10月号　最新の食品プロセス工学の話題から
11月号　ナノテクが拓く世界
12月号　シミュレーションが創る新しい粉体技術
平成 23 年　1月号　健康と粉体
2月号　粉体に関する標準化・規格化
3月号　国際粉体工業展東京 2010 を終えて

2. 実施した会合、会議について

（委員会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.6.12	東京・種苗会館 6F	19	1.「粉体技術」4,5,6 月号を振り返って 2.「粉体技術」7 月号の確認 3.8～12 月号の進捗状況 4.アンケート結果について
2	H22.9.17～18	京都・大谷ホール	26	1.編集小委員会について 2.表紙デザインについて 3.編集作業フロー及びスケジュールについて 4.「粉体技術」10 月～1 月号の確認 5.「粉体技術」7,8,9 月号を振り返って 6.2 月号以降の進捗状況確認 7.平成 23 年度特集記事について 8.その他
3	H22.12.4	東京・TKP 新橋ビジネスセンター	22	1.「粉体技術」10,11,12 月号を振り返って 2.1 月号以降の進捗状況 3.その他

4	H23.3.5	京都・メルパルク京都	21	1.「粉体技術」1,2,3 月号を振り返って 2. 4～8 月号及び 9 月号以降の進捗状況 3.一般記事の依頼状況 4.連載記事、コラムなど 5.挿絵に関して 6.現場ルポ 7.先達の言葉について 8.その他

（小委員会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.4.12	協会　京都本部・東京事務所（TV 会議）	6	1. 5 月号に関して 2. 4 月号を振り返って 3.その他
2	H22.5.17	同　上	6	1. 6 月号に関して 2. 5 月号を振り返って 3.その他
3	H22.6.14	同　上	6	1. 7 月号に関して 2. 6 月号を振り返って 3.その他
4	H22.7.12	同　上	6	1. 8 月号に関して 2. 7 月号を振り返って 3.その他
5	H22.8.10	同　上	6	1. 9 月号に関して 2. 8 月号を振り返って 3.その他
6	H22.9.14	同　上	7	1.「粉体と工業」社の件 2.小委員会の位置づけ 3.10 月号に関して 4. 9 月号を振り返って 5.その他
7	H22.12.4	同　上	6	1. 11 月号に関して 2. 9 月号を振り返って 3.その他
8	H22.10.18	同　上	8	1. 12 月号に関して 2. 11 月号を振り返って 3.その他
9	H22.12.14	京都・協会本部　会議室	8	1. 北斗Ｐ社 加舎氏紹介 2. 1 月号に関して 3.その他
10	H23.1.18	同　上	7	1. 販売冊数 UP について 2. 2 月号に関して 3.その他
11	H23.2.15	同　上	7	1. 誌面文字の濃淡について 2. 3 月号に関して 3.その他
12	H23.3.15	同　上	6	1. 4 月号に関して 2.その他
13	H23.3.29	同　上	6	1.5 月号に関して 2.その他

6. 3 推薦審査委員会（真鍋　功 委員長、増田弘昭 副委員長）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

分科会功労賞の選考を行い、7 名の方々を推薦した。また、個人会員 1 名、名誉個人会員 1 名の入会、及び個人人会員 1 名の退会の選考を行った。さらに協会賞に 4 名、粉体工業功績者に 32 名、細川明彦・佐知子基金による粉体工業展賞に 1 名、大阪粉体工業展賞に 3 名を推薦した。

2. 実施した会議、会合について

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.10.21	京都・協会本部　会議室	8	1.分科会功労賞の選考審査について （7 名の候補者を会長に答申）
2	H23.1.13	同　上	8	1.個人会員候補者の選考について 2.会友候補者の選考について 3.個人会員の名誉個人会員への移行について
3	H23.3.24	同　上	7	1.協会賞候補者の選考審査について 2.粉体工業展賞候補者の選考審査 3.粉体工業功績者候補の選考審査 4.その他

6. 4 粉体工業展委員会

（大川原 武 委員長、谷本友秀 副委員長、島田啓司 副委員長、加藤文雄 副委員長）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

第1回委員会開催・H22.12.3　東京ビッグサイトにて　出席者 13 名

(1)国際粉体工業展東京 2010 の開催結果について

東京粉工展委員会から報告があった。

(2)粉体工業展の中長期計画について

①粉工展大阪 2011(開催H23.10.19～21)
②粉工展名古屋 2012(開催H24.4.11～14)
③国際粉工展東京 2012(開催H24.11.28～30)
④粉工展大阪 2013(H25　開催・月日未定)
⑤粉工展名古屋 2014(開催未定・H26.4)
⑥国際粉工展東京 2014(開催・H26.月日未定)

(3)粉体工業展事業の運営事務局委託の問題について

経産省から「公益社団法人として後援しているので、収益事業においても、その方法、費用など公正な方策をとらないと後援しない」主旨の指摘があり、CNT(賛助会員)への運営事務局費、反省会などが問題視された。

2012 年以降の運営委託等は、随意契約でなく一般公募等にせよとの指摘を受けた。早急に事務局にて、それに向けた応札仕様書(案)を作成するべく準備に入ることとする。

(4)粉体工業展に関わる粉体工学会との協力料対価について

協会から学会に展示会協力費として、従来から東京開催年 250 万円、大阪開催年 200 万円を拠出しているが、その趣旨、金額等について学会と話し合うこととした(23 年 3 月に協会・学会幹部懇談会にて)。

2. 実施した会合、会議について

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.12.3	東京・東京ビッグサイト	13	1.国際粉体工業東京2010の開催結果について 2.粉体工業展の中長期計画について 3.粉体工業展事業の運営事務局委託の問題について 4.粉体工業展に関わる粉体好学会との協力料対価について

6.5 東京粉体工業展委員会 （谷本友秀 委員長、大川原正明 副委員長、矢澤明人 副委員長）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

国際粉体工業展東京 2010 の開催実績

概要は 5.2 項記載の通り、盛況裡に終了することができた。

開催日時:平成 22 年 12 月 1 日(水)～3 日(金)10:00～17:00
会　　場:東京ビッグサイト　東 1･2･3 ホール
開催規模:265 社･団体、941 小間　(前回 262 社･団体、943 小間)
来場者数:合計 14,881 名(実質登録入場者数、主催者･事務局･関係業者は含まず)
(12/1:4,043 名、12/2:5,015 名、12/3:5,823 名)

2. 実施した会合、会議について

(出展･来場促進小委員会)

回	月･日	場　所	人数	議　題
1	H22.4.20	東京･協会東京事務所	7	1.出展状況確認及び促進計画
2	H22.6.9	東京･八重洲倶楽部	9	1.出展状況確認及び促進対策
3	H22.7.20	東京･協会東京事務所	8	1.出展促進状況報告と対応 2.来場促進計画

(正副委員長･広報主査会議)

回	月･日	場　所	人数	議　題
1	H22.8.19	東京･協会東京事務所	8	1.招待状構成、広報宣伝の詳細、ポスター最終審議 2.会場基本レイアウト

(米粉･展示ゾーン打合せ)

回	月･日	場　所	人数	議　題
1	H22.7.29	東京･㈱シー･エヌ･ティ会議室	5	国際粉工展東京2010の出展数拡大の一環として「米粉(こめこ)」をテーマとした新規展示ゾーン設置について(打合せ)

(会場構成(小間割)検討会議)

回	月･日	場　所	人数	議　題
1	H22.8.30	東京･協会東京事務所	9	1.会場小間割り検討･承認 2.その他

(会場運営実行委員会)

回	月･日	場　所	人数	議　題
1	H22.10.28	東京･種苗会館 6F 会議室	17	1.展示会規模について 2.会場運営実行委員会マニュアルの確認 3.図面説明 4.前回会場運営からの報告、対処、今後にむけて 5.ユニフォームサイズ確認

(委員会)

回	月･日	場　所	人数	議　題
1	H22.4.10	東京･種苗会館 6F 会議室	20	1.出展応募状況と促進対策 2.各併催行事の進捗状況とフォローアップ 3.その他
2	H22.6.9	東京･八重洲倶楽部	19	1.出展状況と促進対策報告と審議 2.各併催行事の詳細計画の審議 3.その他
3	H22.7.20	東京･種苗会館 6F 会議室	19	1.出展状況と見通し報告 2.米粉ゾーンの企画審議 3.併催行事計画の詳細 4.会場運営実行委員の人選について

4	H22.9.10	東京・種苗会館 6F 会議室	19	1.開催規模と会場レイアウト 2.招待状掲載内容の確認 3.各種行事段取確認
5	H22.10.19	同　上	20	1.会場レイアウトの詳細部分協議 2.各行事の担当分け決定 3.開会式、レセプションの段取決定 4.アンケート形跡 5.その他の確認事項
6	H23.2.10	神奈川県・茅ヶ崎 パナソニックリゾート 湘南	31	委員会・反省会 1.報告事項 結果報告、来場者/出展社アンケート、会場運営実行委員会業務内容報告、粉体技術総覧 2010/2011 発行について、収支見通、併催行事小委員会/出展・来場促進小委員会/粉の広場小委員会/学会関係/参加委員/協会関係 各コメント 2.今後の課題について(谷本委員長)

6. 6 名古屋粉体工業展委員会 (加藤文雄 委員長、杉山周宏 副委員長、田畑信行 副委員長)

1. 平成 22 年度の事業実績概要

1) 粉体工業展名古屋2010の開催概要は 5.1 項記載の通り。

会　期:平成 22 年 4 月 14 日(水)～17 日(土)　10:00～17:00
会　場:愛知・ポートメッセなごや
併　催:2010中部パック〔主催:(一社)中部包装食品機械工業会・開催規模:169 社 577 小間〕
開催規模:19 社、74 小間
来場者:中部パック発表 63,375 名 (内、粉体工業展名古屋2010招待状持参者は 1,514 名)

2) 開催結果

・来場者の比率は愛知、岐阜を中心に８７％を占め、地域性が出ている。
・粉体工業展名古屋としては 5 回目。採算面での議論はあるが、粉体工業技術の普及、啓蒙の点からは貢献したと考える。

2. 実施した会合、会議について

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.7.16	名古屋・名鉄ニューグランドホテル	15	1.粉体工業展名古屋2010を振り返って 2.粉体工業展名古屋2012開催にあたって 3.粉体工業展名古屋の今後について 4.その他

1) H22 年 10 月 8 日(金)、辻専務理事、加藤委員長、杉山周宏副委員長が中部パックとの合同委員会に出席

6. 7 大阪粉体工業展委員会

(島田啓司 委員長、加藤文雄 副委員長、瀬尾博幸 副委員長、菅原一博 副委員長)

1. 平成 22 年度の事業実績概要

第９回目を迎える粉体工業展大阪２０１１開催に向けて、活動を行った。

2. 実施した会合、会議について

(委員会)

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.6.18	京都・メルパルク京都	25	1.委員紹介と各役職の決定 2.開催概要の説明 3.展示会基本構成・募集小間について 4.出展促進・来場促進のための企画について 5.開催までの概略スケジュール 6.その他

2	H22.8.26	京都・メルパルク京都	21	1.合同会議(8/5)の結果説明 2.デザイン案について 3.併催イベントスケジュール・部屋割 4.出展規模と募集計画(180 社・580 小間) 5.講演会に関して 6.開催要項構成について 7.その他
3	H22.10.7	同　上	24	1.開催要項の確認 2.併催イベントの状況と検討 3.関連団体(国内・海外)への対応検討 4.その他
4	H23.1.27	同　上	26	1.出展状況について 2.併催イベントスケジュール 3.バーター無料ブースについて

(APPIE 産学官連携フェア2011実行委員会)

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.10.7	京都・メルパルク京都	11	1.APPIE 産学官連携フェア2011計画全般 2.APPIE 産学官連携フェア2011委員構成について 3.今後の進め方について

(全科展・粉体工業展合同会議)

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.8.5	大阪・大阪科学機器協会事務局	10	1.両展示開催概要説明 2.開会式 3.PR について 4.協同企画 5.今後の合同会議について

6. 8 分科会運営委員会 (杉田 稔 委員長、伊ヶ崎文和 副委員長)

1. 平成 22 年度の事業実績概要

分科会運営委員会活動の広報:粉体技術4月号{分科会活動特集号}に於いて当委員会の活動の経緯、H23 年度活動方針や H22 年度活動内容などを紹介した。

2. 平成 22 年度に実施した会合、会議について

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.7.1	名古屋・安保ホール	8	1.「分科会規約」について 新設・分割・併合・継続・廃止 2.8 月開催の拡大分科会運営委員会およびヒアリングの進め方について 3.準備小委員会(粉体技術報告会(仮称))について討議 4.その他諸問題について 1) 分科会モニター活動の件;担当委員を決め、分科会を視察する。 2) その他
2	H22.8.20	京都・メルパルク京都	11	1.バルクハンドリング、粉砕、分級ふるい分けおよび晶析の 4 分科会に対するヒアリングを実施 ・幹事増員(特にユーザ)について ・会員/非会員の割合と会費の差 ・代表幹事間で情報交換するための「メーリングリスト」を設置することなど。
			35	(拡大委員会) H22 年度、各分科会の活動進捗状況と課題の報告

				午前に実施した4分科会のヒアリング結果の報告 分科会から提起された課題と総合討議 ・各分科会の名簿に関して ・参加費に関して ・「分科会の名称」と「活動の内容」に関して ・見学場所探しに関して;メーリングリスト設置 ・その他
3	H22.11.6	名古屋・安保ホール	8	1.委員長連絡会議の報告 2.拡大分科会運営委員会にて提起された問題点の整理と対処方法の検討 3.分科会功労賞の人選について 4.分科会連絡会議(H23.1.21)の次第と運営分担 5.その他;分科会活動における会員増のお願い 分科会継続・新設・廃止申請、分科会モニター活動の中間報告、委員会業務所掌について
~~4~~	~~H23.3.12~~	~~同 上~~ (＊)	－	1.分科会連絡会議を振り返って 2.次年度の委員長活動に関して 3.(最新情報フォーラム)準備小委員会 第1回最新情報フォーラムに関して

＊東日本大震災のため中止し、メール会議に切り替え。

(準備小委員会)

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.8.20	京都・メルパルク京都	7	1.開催趣旨、対象(ユーザを意識)、時期、場所テーマなどについて 2.今後の進め方
2	H22.11.6	名古屋・安保ホール	8	1.委員会連絡会議の報告 2.拡大分科会運営委員会で提起された問題点の整理と検討 3.分科会功労賞の人選について 4.分科会連絡会議(H23.1.21)の次第と運営分担 5.その他;分科会活動における会員増のお願い、分科会継続・新設・廃止申請、分科会モニター活動の中間結果報告、委員会業務所掌について

6.9 海外交流委員会 (辻　裕 委員長、森　康維 副委員長、赤堀肇紀 副委員長)

1. 平成22年度の事業実績概要

(1)第3回北京粉体工業展(Mining & Powder 2010) 2010年3月31日～4月2日 (出展、協賛団体となる)

当協会に無料ブースが提供され辻裕委員長及び浅井信義中国担当委員が協会ブースのアテンドのために出張した。昨年12月の上海粉体工業展に引き続き、会員のために何ができるかを真剣に考えた。PC用のプロジェクターとしてプラズマプロジェクターを設置しパワーポイントで協会の紹介を行った。壁に貼るポスターを大幅に見直した。原料から最終製品までの粉体プロセスの典型的なフローを大きな紙に描き、各段階の装置の略図を入れて協会会員がどのプロセスに関係しているかがわかるようなポスターを展示会のために製作した。これにより、来場者の関心が高まり、協会会員のPRができた。その他、協会の案内資料、協会会員の名簿、日本の粉工展のチラシを用意した。

(2)第8回上海粉体工業展(IPB2010 International Powder/Bulk Conference and Exhibition (8th session))
(2010/9/27-29, 中国・上海)に交換ブースを開設

9月27(水)～29日(金)開催の上海粉体工業展に出展して、辻裕委員長、浅井信義中国担当委員がAPPIE代表として出席した。APPIEブースにおいてはポスターの展示だけでなく、PCを持ち込み、APPIEの活動をパワーポイントのスライドを用いて説明し、更に製造工程図を作成して、そのどの工程を会員会社が担っているかを表示して、会員会社のPRを行った。

(3)上海粉体工業展における会員を対象にした共同出展の開催
上記上海粉体工業展において会員企業より共同出展を募集し展示を行ない、出展社より好評を博した。

(4)インド ChemTECH World Expo 2011 に出展
インド Chemtech Foundation と相互の工業展協力の覚書を締結し、無料ブースの交換を行った。国際粉体工業展東京 2010 に Chemtech のブースを開設すると同時に 2011 年 2 月開催の ChemTECH WORLD EXPO 2011 に APPIE として出展した。

2. 実施した会合、会議について

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.6.2	東京・協会 東京事務所	13	1.平成 22 年度事業の実行状況の報告及び推進方法の検討 2.海外との関わりについて
2	~~H23.3.16~~	~~東京/京都 TV 会議~~ ＊ (＊)	－	1.ニュルンベルクメッセ社との契約締結について 2.上海粉体工業展における Japanese Pavilion 設置について 3.海外広報のありかたについて 4.EPA について 5.その他

＊東日本大震災のため中止。メールによる会議に切り替え。

(企画小委員会の開催)

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.12.15	京都・協会本部会議室	5	1.海外活動について 2.平成 23 年度予算の検討 3.次回委員会日時の決定 4.その他

6. 10 人材育成委員会 (大川原正明 委員長、西村卓朗 副委員長))

1. 平成 22 年度の事業実績概要

【営業・管理部門の若手のつどい】

①第 34 回:平成 22 年 6 月 18 日(金) 16:00～19:00 協会・本郷 機山館(47 名)
講師:早稲田大学理工学学術院(創造理工学部・環境資源工学科) 教授 大和田 秀二 氏
講演テーマ:救うべきは地球？ 人類？

②第 35 回:平成 22 年 10 月 25 日(月) 16:00～19:00 協会・本郷 機山館(59 名)
講演テーマ:次世代電池がもたらすクルマ社会

③第 36 回:平成 23 年 2 月 9 日(水)16:00～19:30 名古屋(49 名)
場所:(講演)名古屋ダイヤビルディング (懇親会)地鶏坊主
講師:杉山重工㈱ 取締役会長 杉山 周宏 氏
講演テーマ:「素養・素質という基本からみた技術トレンド」

【国際粉体工業展東京2010】

①学生ツアー
開催日時:平成 22 年 12 月 1 日(水) 10:00～13:30
場　　所:東京ビッグサイト東 1・2・3 ホール
交 流 会:東 1 ホール主催者控室
参加人数:ツアー82 名 交流会 103 名(関係者含む)

2. 実施した会合、会議について

(委員会)

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.6.18	東京・協会 東京事務所	8	1.平成 22～23 年度人材育成委員会新委員 2.前回議事録(H22.2.3)の確認 3.平成 22 年度事業計画の確認 4.国際粉体工業展東京 2010 学生ツアーについて 5.第 35 回「営業・管理部門の若手のつどい」について 6.第 34 回「営業・管理部門の若手のつどい」役割分担について 7.その他 ① 「営業・管理部門の若手のつどい」マニュアル作成について ②平成 22 年度委員会、「営業・管理部門の若手のつどい」開催予定日
2	H22.10.25	同 上	11	1.国際粉体工業展東京 2010 学生ツアーについて 2.第 36 回「営業・管理部門の若手のつどい」について 3.第 35 回「営業・管理部門の若手のつどい」役割分担について 4.人材育成委員会業務所掌について 5.来年度人材育成委員会のあり方について(フリートーク) 6.その他
3	H23.2.9	名古屋・名古屋ダイヤビルディング 会議室	12	1.平成 23 年度事業計画について 2.平成 23 年度「営業・管理部門の若手のつどい」について 3.国際粉体工業展東京2010学生ツアーの感想・反省 4.粉体工業展大阪2011学生ツアーについて 5.平成 23 年度委員会等開催予定 6.第 37 回「営業・管理部門の若手のつどい」(平成 23 年度第 1 回)について 7.第 36 回「営業・管理部門の若手のつどい」役割分担について 8.その他

6. 11 標準粉体委員会 (吉田英人 委員長、森　康維 副委員長)

1. 平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度は下記の会議を開催した。

①平成 22 年4月 21 日　第1回小委員会 協会本部会議室 出席者7人

H18～19年度にNEDOから研究委託を受けて製造した、粒子径が0.1～1μmに分布するシリカ微粒子(粒子径分布の検定用)及びその他の粒子に関して、協会から販売するための適当な粒子について、検討した。

②平成 22 年 5 月 27 日　第2回小委員会 協会本部会議室 出席者 5 人

粒子径が 0.3～1.4μm, 0.2～0.8μm, 0.07～0.3μm,に分布する3種類のシリカ粒子を選定した。広大と同志社大にて電子顕微鏡及び他の測定装置による粒子径分布の測定の実施に関して検討した。

③平成 22 年 9 月 3 日　第3回小委員会 協会本部会議室 出席者 5 人

粒子径が 0.3～1.4μm, 0.2～0.8μm, 0.07～0.3μm,に分布する3種類のシリカ粒子の広大と同志社大における粒子径測定結果について検討した。

なお粒子径が 0.3～1.4μm, 0.2～0.8μm 粒子に関しては再度測定をすることにした。

④平成 22 年 10 月 20 日　第1回委員会 協会本部会議室 出席者 15 人

次年度粒子径が 0.3～1.4μm, 0.2～0.8μm, 0.07～0.3μm,に分布する3種類のシリカ粒子を協会から

販売することとした。また実施した3種類の粒子に関する粒子径分布の測定結果に関して検討した。
⑤平成 23 年1月予定　第4回小委員会
市販予定の3種類の粒子について、協会規格、市販時期及び粒子径測定方法について相談した。

2. 実施した会合、会議について
(委員会)

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.10.22	京都・協会 本部会議室	15	粒子径 0.3～1.4μm、0.2～0.8μm、0.07～0.3μm の3種のシリカ粒子を販売決定し、3 種の粒子径分布の測定結果に関して検討した。

(小委員会)

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.4.21	京都・協会 本部会議室	7	協会から販売するための適当な粒子について
2	H22.5.27	同　上	5	1.シリカ粒子の選定 2.同志社大学での測定実施について
3	H22.9.3	同　上	5	3 種類のシリカ粒子について、広島大学と同志社大学の測定結果について検討
4	H23.1.19	同　上	6	1.協会規格案についての協議 2.事業化のための作業について

7. 規格・標準委員会

7. 1 規格委員会 (遠藤茂寿 委員長)

1. 平成 22 年度の事業実績概要
①規格委員会体制の拡充:委員長の交代及び新規メンバーを加えた新たな体制が発足
②規格化・標準化作業の推進・支援:IS 化された規格のうち, 粉体工業技術に必要とされるものの速やかに JIS 化する。
・ISO 22412:2008(動的光散乱)及び ISO 13320:2009(レーザ回折法)の JIS 化を JSA に申請し、委員長を同志社大学 森康維氏、及び産総研 綾信博氏としてそれぞれ原案作成委員会を 22 年 12 月及び 23 年 4 月から発足させ、JIS 化作業に入る。
・ISO 9277:1955 の改訂(ISO 9277:2010)に伴い JIS Z 8830:2001(比表面積測定)の改訂原案の作成を宇都宮大学 鈴木昇氏を委員長として行う。
③協会規格の作成に対する支援:協会規格の見直しも 5 年ごとにする必要があるので、90 年代に制定された協会規格の見直しを行うこととした。
④規格事業の成果の広報:「粉体技術」誌 2011 年 2 月号で規格化特集。ISO, JIS の標準化事業の概略と、2009 年度に発行した JIS 規格, 及び協会規格を紹介。
⑤産総研から提案された「圧密粉体の剪断特性測定方法の標準化」について、協会内の関係者から意見を聴取し、共通測定や規格の作成に協力することとした。

2. 実施した会合、会議について
①規格委員会

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.6.1	東京・協会 東京事務所	11	1.新規 規格委員紹介 2.JIS 化状況および規格類の現状確認 3.H22 年度事業計画(JIS 化、粉体技術特集号など) 4.規格関連委員会の動向

2	H22.11.12	協会・本部⇔東京事務所 TV 会議	10	1.H22 年度 JIS 原案作成状況 2.既存 JIS の見直し時期について 3.規格類の現状確認 4.H23 年度事業計画(JIS 化、広報など) 5.規格関連委員会の最近の動き 6.流動性評価のラウンドロビンテスト

②「圧密粉体の剪断特性測定方法の標準化」に関する意見交換会

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.12.13	東京・種苗会館 6F⇔本部 TV 会議	17	1.意見交換会 2.方針確認…協会が産総研委員会に参画し、来年度中の規格化を目指す件

7. 2 ISO 対応委員会 (増田弘昭 委員長、内海良治 副委員長、吉田英人 副委員長)

1. 平成 22 年度の事業実績概要

ISO 対応委員会は経済産業省の国際標準開発等の委託事業など、協会の ISO 活動に対応する委員会で、傘下に 3 つの小委員会を置いてそれぞれ活動している。

①粒子特性評価小委員会(ISO/TC24/SC4 遠藤委員長)
②ふるい小委員会(ISO/TC24/SC8 内海委員長)
③集じん用ろ布小委員会(ISO/TC146/SC1/WG23 他 米田委員長)

2. 今年度の関係委託事業

①粒子特性評価およびふるいに関する国際標準開発　三菱総研(120 万円)
②集じん用バグフィルタの集じん性能評価に関する国際標準開発　三菱総研(160 万円)
③バグフィルタ用ろ布の耐久性試験方法に関する国際標準開発　三菱総研(150 万円)
④ISO/IEC 国際回答原案作成　三菱総研(35 万円)
⑤幹事国団体・国際規格原案作成促進事業　(財)JKA/日本規格協会(71 万円×1/2)

7. 2. 1 粒子特性評価小委員会 (遠藤茂寿 小委員長)

1. 平成 22 年度の事業実績概要

①第 1 回:平成 22 年 5 月 18 日(火)、東京・種苗会館 6 階会議室、31 名出席
・ISO/TC24/SC4 38th 会議の報告
②第 2 回:平成 22 年 9 月 14 日(火)、東京・種苗会館 6 階会議室、34 名出席
・ISO/TC24/SC4 39th 会議への対応
③第 3 回:平成 23 年 1月 30 日(月)、東京・種苗会館 6 階会議室、28 名出席
・40 回会議と今後の SC4 への対応

(委員会)

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.5.18	東京・種苗会館 6F	31	ISO/TC24/SC4 第 38 回会議の報告
2	H22.9.14	同 上	34	ISO/TC24/SC4 第 39 回会議への対応
3	H23.1.30	同 上	28	第 40 回会議と今後の SC4 への対応

2. 実施事業

①ISO/TC24/SC4 38th 会議(ニュールンベルク、ドイツ(2010. 4.30-5.1))
・8 カ国、1 機関、47 名出席で開催された。日本から 9 名が参加した。
・10 の WG が開かれ審議した。
②ISO/TC24/SC4 39th 会議(ポートランド、米国(2010.10.24-25))
・8 カ国、1 機関、43 名出席で開催された。日本から 12 名が参加した。
・11 の WG が開かれ審議した。
・国際幹事(Frank Thomas, BSI)が 2011 年末で交代する意向を表明。
③ISO の定期見直し SR、各審議ステージでの投票
・SR:2011 年 3 月までに 9 件(8 件に対してコメントを付して継続、あるいは改訂を投票)
・FDIS 1 件、DIS 1 件、CD 1 件、NP 1 件にコメントを付して投票

（ISO／TC24／SC4 国際会議）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
38	H22.4.30～5.1	ドイツ・ニュルンベルク	9 (47)	10 の WG
39	H22.10.24-25	米国・ポートランド	12 (43)	11 の WG

7. 2. 2 ふるい小委員会（内海良治　小委員長）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

委員会開催は、無し。

7. 2. 3 集じん用ろ布小委員会（米田　佐　小委員長）

1. 平成 22 年度の事業実績概要・ISO 化に向けた成果

①集じん用ろ布の試験方法(集じん性能:JIS Z 8909-1:2005 の ISO 化)

2010.5 TC146/SC1/WG23 カールスルーエ会議にて FDIS 11057 作成完了(日本の修正コメント採択)

②集じん用ろ布の試験方法(耐久性:JIS Z 8909-2, -3:2008 の ISO 化)

耐久性:JIS Z 8909-2, -3:2008 の ISO 化は数年来の念願であったが、2010 年 11 月 TC142 上海会議で PWI として承認され、2011 年 9 月にブラジルで開催される 7th Plenary Meeting で WG7 として発足することが決まる。[WG-B]

TC142/WG7 は日本(APPIE)から Convener を出し ISO 化に向けて進める。

（小委員会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.4.22	東京・種苗会館 6F	13	DIS 11057投票
2	H22.6.29	東京・中央大学 駿河台記念館	8	日中集じん技術検討会
3	H22.9.7	東京・協会　東京事務所	5	1.耐久性の TC146 審議 2.TC142/WG5 Web 会議
4	H22.12.9	東京・種苗会館	10	TC142 上海国際会議報告
5	H23.2.25	同　上	16	H23 年度の体制と活動計画

(WG 会議)WG-A 集じん性能国際標準化ワーキンググループ

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.4.22	東京・種苗会館 6F	13	DIS 11057投票
2	H22.6.29	東京・中央大学 駿河台記念館	12	カールスルーエ会議報告

(WG 会議)WG-B ろ布耐久性国際標準化ワーキンググループ

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.4.22	東京・種苗会館 6F	18	NWI 採択のための審議
2	H22.6.29	東京・中央大学 駿河台記念館	16	日中技術検討会準備
3	H22.8.31	石川県・津幡 石川高専会議室	14	8/30 の日中技術検討会・協同提案審議
4	H22.12.9	東京・種苗会館 6F	14	TC142 上海会議報告・WG7 設立準備
5	H23.2.25	同　上	15	TC142/WG7 の体制と NWIP 検討

(WG 会議)WG-C バグフィルタシステムの試験法

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.4.22	東京・種苗会館 6F	12	TC142/WG5 設立経緯の報告

2	H22.6.29	東京・中央大学 駿河台記念館	15	TC142/WG5 Web 会議
3	H22.12.9	東京・協会 東京事務所	12	TC142/上海会議報告
4	H23.2.25	東京・種苗会館 6F	15	TC142/WG5 への取組検討

7. 3 粉じん爆発委員会 （土橋 律 委員長、榎本兵治 副委員長）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

1) 規格の作成

・「可燃性粉じん・空気混合気の最小着火エネルギー測定方法」SAP 12-10 協会規格化

2) H22 年度 JIS 見直し調査（H23～24 年度上半期に 5 年見直し時期となる JIS）

・JIS Z 8817:2002「可燃性粉じんの爆発圧力及び圧力上昇速度の測定方法」確認

・JIS Z 8818:2002「可燃性粉じんの爆発下限濃度測定方法」確認

3) 耐爆構造規格

耐爆構造規格への対応について調査検討活動を継続中。

平成 21 年 12 月 22 日、監督官庁である厚生労働省に相談。外部に影響の無い爆発は法律での爆発には当たらないとの見解を得た。なお、規格については、民間で策定することは推奨するとのこと。

4) 安全教育（企画・運営…粉じん爆発委員会、事業部門…教育部門、安衛研共催）

① 粉じん爆発・火災安全研修【初級】（毎年秋季に定例開催。関東・関西で交互に開催の予定）
平成 22 年 9 月 28,29 日 京都府 同志社大学 学研都市キャンパス「快風館」にて開催 受講者 92 名

② 粉じん爆発・火災安全研修【中級】（隔年で、労働安全衛生総合研究所にて開催の予定）
平成 23 年 3 月 10,11 日 東京都・清瀬市 労働安全衛生総合研究所にて開催 受講者 63 名
11 日午後の講義中、東日本大地震発生。講義は一時中断後続行し終講。26 名は翌朝まで待機帰宅。

5) 行事等への対応

①東京粉工展「粉じん爆発情報セミナー」平成 22 年 12 月 2 日 13:15-17:00 参加者 164 名+委員等 22 名

②爆発安全国際会議（8th ISHPMIE、平成 22 年 9 月開催）の協賛

6) 委員会、耐爆構造規格検討小委員会、事例勉強会

①第 1 回委員会…H22- 7-14（水） 東京事務所 委員会 17 名、耐爆拡大 16 名、事例勉強 16 名

②第 2 回委員会…H22-12-14(火) 東京事務所 委員会 21 名、耐爆拡大 20 名、事例勉強 21 名

③第 3 回委員会…H23- 3- 4(金) 東京事務所 委員会 16 名、耐爆拡大 16 名、事例勉強・延期

2. 実施した会合、会議について

（委員会）

回	月・日	場 所	人数	議 題
1	H22.7.14	東京・種苗会館 6F	17	1.H22、H23 年度委員会構成確認 2.委員長連絡会報告、H21 年度実績と H22 年度事業計画確認 3.粉体工業展名古屋 2010「最新情報フォーラム」について 4.国際粉体工業展東京 2010「粉じん爆発情報セミナー」について 5.粉じん爆発・火災安全研修【初級】【中級】について 6.協会規格 SAP 12-10:2010 JIS 化に向けて 7.JIS Z 8817、JIS Z 8818 について 8.IEC/TC31 の国内委員会状況 9.「協会の国際標準化に向けた長期的戦略と対応」7/30 意見交換会について
2	H22.12.14	同 上	21	1.H22 年度進捗状況 2.H22 年度 JIS 見直し調査 JIS Z 8817:2002、JIS Z 8818:2002 確認 3.H22 年度粉じん爆発・火災安全研修【初級】実施報告 4.粉じん爆発・火災安全研修【中級】について

				5.国際粉体工業展東京 2010「粉じん爆発情報セミナー」について 6.「粉じん爆発・火災安全研修【初級】」次回開催について 7.粉体工業展大阪 2011「粉じん爆発情報セミナー」について 8.粉体工学会 春期研究発表会「粉じん爆発に関する技術フォーラム」について 9.SAP 12-10「可燃性粉じん・空気混合気の最小着火エネルギー測定方法」 JIS 化計画 10.8th ISHPMIE 国際学会報告 APPIE 協賛行事 11.IEC/TC 31 国内委員会「31 委員会」活動内容 12.H22 年度の今後の計画について 13.H23 年度の計画の検討 14.その他
3	H23.3.4	東京・種苗会館 6F	16	1.今年度事業進捗状況と H23 年度事業計画 2.H22 年度 粉じん爆発・火災安全研修【中級】計画 H23 年 3 月 10,11 日 安衛研 3.粉じん爆発火災安全研修【初級】次回開催日の選定 H23 年 9 月 27-28 日 4.粉体工業展大阪 2011「粉じん爆発情報セミナー」計画 10 月 19 日(水)14:30～17:30 5.粉体工学会 春季研究発表会「粉じん爆発に関する技術フォーラム」H23 年 5 月 24 日 ①能動的被害抑制技術 ②耐爆構造被害抑制技術 ③他 6.SAP 12-10「可燃性粉じん・空気混合気の最小着火エネルギー測定方法」JIS 化 H23/10 応募 7.IEC/TC 31 国内委員会活動内容報告 8.労働安全衛生法 防爆関係改訂動向 国際規格の採用方針と APPIE の対応について 9.ISO/TC 21(消防器具) の ISO 定期見直し関与について、国内委員会から要請の可能性有 10.粉じん爆発火災安全研修【中級】初回開催につき確認 (詳細は関係者にて会議後打合せ) 11.その他 ・次回 H23/7/17 予定

(耐爆構造規格検討小委員会) 〈3 回とも拡大小委員会にて開催〉

回	月・日	場 所	人数	議 題
1	H22.7.14	東京・種苗会館 6F	16	1.厚労省安全衛生部安全課との確認事項 2.耐爆構造規格適合設備の導入について 3.耐爆構造規格に関しての考え方
2	H22.12.14	同 上	20	1.委員交代の件 2.各社海外規格設備導入(輸入)状況について 3.厚労省(H21.12.22)確認以降の、厚労省(労基署等)への申請・説明状況…(事例なし) 4.EU 規格(BS EN 14460:2006)の国内規格化について 5.その他
3	H23.3.4	同 上	16	1.委員交代の件 2.各社海外規格適用情報 3.厚生労働省 労働基準局安全衛生部 安全課担当官交代の件 4.粉じん爆発関連の労働安全衛生法改正作業との関連について 5.EU 規格の国内への採用について

（事例勉強会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.7.14	東京・種苗会館 6F	16	「可燃性粉じんの爆発性と着火氏の評価」 荷福委員
2	H22.12.14	同　上	21	「味の素グループにおける粉じん爆発安全対策の取組」 中田委員
3	H23.3.4	－	－	「8th ISHPMIE 粉じん爆発関係発表紹介」 委員会延長につき延期 （土橋委員長）

8. 特別委員会

8. 1 ナノ物質の安全性向上のためのガイドライン作成委員会

（川島嘉明 委員長、伊ヶ崎文和 副委員長、神谷秀博 副委員長）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

厚生労働省から「ナノマテリアルに対するばく露防止等のための新たな予防的対応について」の通達が平成 21 年 3 月に出された。会員企業がナノマテリアルを製造し、取扱うことが今後さらに増加することが予想されるところから、ナノマテリアルを取り扱う現場に置いて、安全・安心を確保するために具体的な管理法、ばく露防止法に関するガイドラインを作成することを目的とし、2年間の限定で本特別委員会が組織された。

なお、今後さらに、ガイドラインの細部調整を行った上で公表したいので、本委員会の活動は1年間延長することとした。

1) 今年度はガイドライン作成に向けて以下の通り活動を行った。

第1回委員会　平成 22 年 4 月 24 日（土）13:30～17:00 於：東京・八重洲倶楽部　出席者 18 名

①経済産業省（オブザーバ）からの報告

「ナノマテリアル製造業者などにおける安全対策のあり方研究会」について

②ガイドライン各章の検討

第1章 リスク管理の動向、第 2 章 ばく露防止対策実施における考え方、第 3 章 ナノ粒子の特性評価法、第 4 章 ばく露防止対策技術の実際、第 5 章 ガイドライン

③その他　国際粉体工業展東京2010　ナノマテリアルのばく露防止セミナー開催予告

コントロールバンド（CB）の医薬業界における考え方、そのガイドラインへの適用について討議

第 2 回委員会　平成 22 年 8 月 28 日（土）13:30～17:00 於：東京・八重洲倶楽部　出席者 18 名

①ガイドライン各章の検討

②その他　国際粉体工業展東京2010のセミナー内容について

ガイドラインをわかりやすくするために、第 5 章を中心に据えて、全体構成を見直すこととなった。

またハザードのレベル分けをどうするかで討議した。

第 3 回委員会　平成 22 年 10 月 30 日（土）13:30～17:00 於：東京・八重洲倶楽部　出席者 15 名

①ガイドライン各章の検討

②その他　特別委員会の来年度までの延長願いについて

第 5 章をガイドラインとして、それ以外は参考資料編とする。ガイドラインの骨子案を示した。参考資料編の構成をいくつか変更した。

国際粉体工業展東京2010　ナノ物質のばく露防止技術セミナーの開催（H22 年 12 月 3 日(金)）

第 4 回委員会　平成 23 年 1 月 11 日（火）　於：東京ガーデンパレス　出席者 15 名）

①ガイドライン各章の検討

②来年度の事業計画について

ガイドラインの検討と参考資料編の構成および次年度事業計画について討議した。

2. 実施した会合、会議について

（委員会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.4.24	東京・八重洲倶楽部	18	1.経済産業省からの報告 2.ガイドライン各章の検討 3.国際粉体工業展東京2010　ナノマテリアルのばく露防止セミナー開催予告、

				コントロールバンド(CB)の医薬業界における考え方、そのガイドライへの適用について
2	H22.8.28	東京・八重洲倶楽部	18	1.ガイドライン各章の検討 2.国際粉体工業展東京2010のセミナー内容について
3	H22.10.30	同　上	15	1.ガイドライン各章の検討 2.ガイドライン委員会の次年度までの延長願いについて
4	H23.1.11	東京・東京ガーデンパレス	15	1.ガイドライン各章の検討 2.次年度の事業計画について

(小委員会)

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.4.23	東京・協会　東京事務所	3	1.国際粉体工業展東京2010のナノ物質ばく露防止セミナーについて 2.ガイドラインなど、第 1 回委員会の進行について
2	H22.7.30	同　上	4	1.国際粉体工業展東京2010のナノ物質ばく露防止セミナーについて 2.ガイドラインの内容について
3	H22.10.8	東京・東京農工大学 神谷研究室	3	1.ガイドラインの内容について
4	H22.11.15	東京・協会　東京事務所	6	1.ばく露防止技術の各論について
5	H22.12.3	東京・東京ビッグサイト	9	1.セミナーの総括 2.ガイドラインの内容について

9. 分科会

9.1 バルクハンドリング分科会　　会員数：139人

（松本幹治 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、松坂修二 副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、村上 徹 代表幹事[アイシン産業㈱]
海老原裕之 副代表幹事[日清エンジニアリング㈱]）

1. 平成22年度の事業実績概要
平成22年度の成果について
1) POWTECH2010(27-29.4.2010, Germany)視察団派遣実施。
2) 若手・中堅の参加者が定着してきた。
3) 粉体エンジニア早期養成講座に貢献できた。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）
（分科会）

回	月・日	場 所	人数	議 題
1	H22.6.25	東京都・中央区日本橋 東京八重洲ホール	54	1.技術講演2件 1) 粉粒体の偏析現象　同志社大学　下坂厚子 氏 2) 粉粒体偏析の対策手順と実施例 フルード工業㈱ 小波盛佳 氏 2.製品紹介2件 1) サークルフィーダー　㈱ヨシカワ　室田正彦 氏 2) 解砕機構付振動ふるい機「TSUBASA」 晃栄産業㈱　伊藤拓二 氏 3. 懇親会
2	H22.9.17	岐阜県・美濃加茂市 ㈱モンテール 美濃加茂工場	17 (54)	1.工場見学：㈱モンテール美濃加茂工場 工場説明： ㈱モンテール美濃加茂工場 青柳芳男 氏 2. 技術講演：食品工場における洗浄と衛生 ㈱クレオ　小林泰久 氏 （輸送分科会、食品粉体技術分科会と合同）
3	H22.11.17	東京都・中央区日本橋 東京八重洲ホール	35	1. 技術講演： プロセストモグラフィ 混相流のオンライン計測法 出光興産㈱生産技術部生産技術センター 町田雅志 氏 2. 製品紹介2件： 1) インパクトハイ定量供給機の構成と機能 三協パイオテク㈱粉体物性研究室 技術課 新藤雄也 氏 2) 製品紹介-2：静電容量式粉体流量計 ㈱インステック　金井恵司 氏 3. 懇親会
4	H23.3.11	東京都・千代田区 東京八重洲ホール	56	1.技術講演 石灰石とその用途について 丸尾カルシウム㈱ 森下俊哉 氏 2.製品紹介3件： 1) マルチ電磁コンベア 2) 粉粒体流動性試験装置 等 3) オンライン粒度分布測定機－インシテック スペクトリス㈱ 中田昌彰 氏 3.懇親会

（幹事会）

回	月・日	場 所	人数	議 題
1	H22.6.25	東京・八重洲 「浮船」	11	1. 第1回の反省 2. 次回の企画について 3. 幹事増員について 4. 海外視察について

2	H22.9.17	名古屋市内「えん」	12	1. 第2回の反省 2. 次回の企画について 3. 拡大分科会報告
3	H22.11.17	東京・八重洲「浮船」	12	1. 第3回の反省 2. 次回の企画について 3. 臨時幹事会について
4	H23.3.11	東京・八重洲	13	1. 第4回の反省 2. 次回の企画について 3. 来期活動について 4. 分科会連絡会議報告

9.2 粉砕分科会　　会員数:114人

（齋藤文良 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、伊ヶ崎文和 副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、三代秀久 代表幹事[㈱アーステクニカ]
伊藤 均 副代表幹事[㈱セイシン企業]）

1. 平成 22 年度の事業実績概要
平成 22 年度の成果について
1) 最新鋭の食品プラント見学、JEITA との粉砕技術に関する意見交換を含んだ本会合の開催
2) 粉体エンジニア早期養成講座[粉砕]の実施
3)「粉砕技術とエコ・リサイクル」約 500 ページの出版およびこれをテキストとした専門講座の開催

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）
（分科会）

回	月・日	場 所	人数	議 題
1	H22.6.18	兵庫県・神戸市 日清製粉㈱東灘工場	22 (44)	最新鋭の食品ﾌﾟﾗﾝﾄ見学と講演 2 件 （分級ふるい分け分科会と合同）
2	H22.10.12	東京・八重洲ダイビル 第 2 会議室	16	JEITA と家電・FPD ｶﾞﾗｽのﾘｻｸﾙに関する意見交換会 講演 3 件

（幹事会）

回	月・日	場 所	人数	議 題
1	H22.6.18	兵庫県・神戸市 「有馬御苑」	8	1.今年度事業計画の確認 2.早期養成講座の開催要領打合せ 3.専門講座の開催要領打合せ
2	H23.1.14	東京都・番屋新橋店	6	1.次年度事業計画の内容 2.日韓ｼﾝﾎﾟ開催企画

（小委員会）

回	月・日	場 所	人数	議 題
~~1~~	~~H23.3.13~~	~~仙台市~~ （＊）	–	~~平成 23 年度日韓ｼﾝﾎﾟ開催企画（分級ふるい分け、混合・成形分科会と合同開催）~~

＊東日本大震災の影響により中止とした。

9.3 分級ふるい分け分科会　　会員数:117人

（吉田英人 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、社河内敏彦 副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、秋山 聡 代表幹事[日清エンジニアリング㈱]
谷川英昭 副代表幹事[関西金網㈱]、廣瀬潤三 副代表幹事[ホソカワミクロン㈱]）

1. 平成 22 年度の事業実績概要
平成 22 年度の成果について
1) 第 52 回 粉体技術専門講座を開催
湿式プロセス分科会と合同で「粉体分離操作の最新技術と電池・先端材料への応用」のテーマで 1 日間の専門講座を開催した。有料参加者 48 名（定員 45 名）で盛会であった。
2) 粉体エンジニア早期育成講座「分級」を開講
参加者 12 名と定員(10 名)を超える申込があった。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）
（分科会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.6.18	兵庫県・神戸市 日清製粉㈱　東灘工場	20 (42)	1. 最新鋭の小麦製粉工場の見学と講演 2 件 （粉砕分科会と合同開催）
2	H23.3.4	茨城県・つくば市 (独)産業技術総合研究所 計測標準研究部門	24	1.研究紹介 1) インクジェット式エアロゾル発生器の開発 産業技術総合研究所　飯田健次郎　氏 2) エアロゾル粒子の質量分級・サイズ分級と応用 産業技術総合研究所　榎原研正　氏 2.技術製品紹介 1) 超音波ジャイロシフター ㈱徳寿工作所　勝又正樹　氏 2) 気流式ふるい分け装置-スピンエアシーブー ㈱セイシン企業　南　勇　氏

（幹事会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.6.18	兵庫県・神戸市	7	1.粉体技術専門講座について 2.粉体エンジニア早期育成講座について 3.第 2 回分科会について
2	H23.3.4	茨城県・つくば市	7	来年度の分科会計画について 平成 23 年度は「分級とふるい分けにおける高精度化技術」をテーマに活動する。

9.4 乾燥分科会　　会員数：86人

（田門　肇 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、大森隆夫　副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、脇屋和紀　代表幹事[㈱大川原製作所]
諏訪　聡　副代表幹事[月島機械㈱]）

1. 平成 22 年度の事業実績概要
平成 22 年度の成果について
1) 第 1 回乾燥分科会：尼崎浄水場、尼崎総合文化センター　参加者 21 名
尼崎浄水場にて浄水場概要の説明後、大型の造粒乾燥機スチームチューブドライヤの稼働状況を含め見学。
講演会では「間接加熱型気流乾燥機の新システムの提案」、「乾燥パラダイスと槽マトリックスモデル」の 2 講演。
2) 粉体エンジニア早期育成講座「乾燥」講座：9 月 16、17 日に大川原化工機（株）粉体技術研究所にて開催。
スプレードライヤー試験機を使用して実習。
3) 第 2 回乾燥分科会：ホテル機山館　参加者 27 名
IDS2010 から「IDS2010 にみる最近の乾燥装置開発動向　-省エネに向けて-」「IDS2010 にみる最近の食品乾燥研究動向」の 2 講演。
乾燥に関して「微少水分域での乾燥について」、「バイプロダクト乾燥装置」、「ビートパルプ蒸気乾燥設備導入による省エネルギー」の 3 講演。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）
（分科会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.6.17	兵庫県・尼崎浄水場 尼崎総合文化センター	21	浄水場見学と講演 2 件
2	H22.11.18	東京・ホテル機山館	27	IDS2010 からの講演を含み 5 件の講演

（幹事会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.6.17	兵庫県・尼崎市「源ぺい」	11	幹事交代、新任の件、次回分科会の計画他
2	H22.11.18	東京・ホテル機山館	9	次回分科会の計画

9.5 集じん分科会　　会員数：102人

（金岡千嘉男 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、牧野尚夫 副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、井村俊明 代表幹事[アマノ㈱]
池野栄宣 副代表幹事[新東工業㈱]）

1．平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度の成果について

21 年度に引続き五つの分科会内グループ活動を推進した。

具体的には、①集じん技術の多機能化、ﾅﾉ粒子、PM2.5、②ろ布 ISO 化、③海外団体との交流、④ユーザー視点の集塵機への期待、⑤専門講座開催は休止とし、粉体エンジニア早期養成講座の準備を進めた。①は第 3 回分科会で 2 月に電気集じん技術をﾃｰﾏに実施予定、②③は昨年に引続き石川高専で中国から孫教授、毛准教授をお迎えし 8 月 30 日に第 4 回日中集じん技術検討交流会を後援する形で第 1 回分科会を開催した。

ISO 化は、「集じん用ろ布性能試験法」は来年度 ISO 制定予定、「ろ布耐久性試験法」は 11 月 9 日の ISO/TC-142 上海会議で WG7 として来年発足予定、④は 11 月 4 日富山県の氷見市でユーザーコメンテーターをコマツキャスティックス㈱にお願いし、鋳造工場に於ける環境対策と問題点をﾃｰﾏに第 2 回分科会を実施した。

⑤早期養成講座の準備は幹事会で概要を纏め、講師を人選してシラバス・日程・会場等を決定した。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場所	人数	議題
1	H22.8.30	石川県・ 石川工業高等専門学校	39	1. 日中集じん技術検討交流会を兼ねて、ろ布の国際標準化の進捗報告と次期 ISO 化予定の耐久性試験方法の共通化と試験結果に付いて、日中双方の研究者が講演 2. 中国瀋陽市 東北大学孫教授「ろ布の力学行為」について 毛准教授「中国に於ける集塵機産業の現状」について 講演があった。
2	H22.11.4	石川県・ コマツキャスティックス㈱	21	1. 集塵機ユーザーのコマツキャスティックス㈱から、「鋳造工場の環境改善における問題点として小型集塵機の機能向上や湿帯集塵の省エネ」について提起があった。 2. メーカーから現下の改善策と将来展望の発表がされ、意見交換を実施、相互の理解を深めた。
3	H23.2.17	福島県・いわき市 常磐共同火力㈱	33	1.勿来微粉炭火力発電所の施設見学 2.我国初の 2.EP+BF ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄ集じん装置含む EP 最新技術講演

（幹事会）

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.4.22	東京・協会　東京事務所	13	1.分科会の年間計画 2.粉体エンジニア早期養成講座の開催、グループ活動の活性化について検討
2	H22.8.30	石川県・石川工業高等専門学校	13	1.第 2 回分科会の準備 2.粉体エンジニア早期養成講座のシラバス案、講師、開催場所について決定 3.ｸﾞﾙｰﾌﾟ活動①ﾁｰﾑの活動報告
3	H22.11.4	富山県・高岡ﾏﾝﾃﾝﾎﾃﾙ	12	1.第 3 回分科会計画 2.上期会計報告 3. 養成講座シラバス修正案の確認
4	H23.2.17	東京・八重洲 OLD MEN,S UN	10	1.本年度の活動総括と来年度の計画検討 2.粉体ｴﾝｼﾞﾆｱ早期養成講座、予定確定報告

（国際標準化集じんろ布小委員会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.4.22	東京・協会東京事務所	13	活動現状報告と本年度活動計画。WG-A:「集じん用ろ布性能試験法」の ISO 化推進ｸﾞﾙｰﾌﾟ制定段階、WG-B:「ろ布耐久性試験法」の ISO 化推進ｸﾞﾙｰﾌﾟで準備段階、WG-C:「ﾊﾞｸﾞﾌｨﾙﾀｰ試験法」の ISO 化推進ｸﾞﾙｰﾌﾟで検討段階
2	H22.6.29	東京・中央大学記念館 500 号室	11	WG-A はｶｰﾙｽﾙｰｴで開催された国際会議の報告、WG-B は同会議で中国と共同提案の意思表示をした。
3	H22.9.7	東京・協会　東京事務所	5	WG-A 参加ｶｰﾙｽﾙｰｴ国際会議投票結果、来年 10 月制定予定。 WG-B は ISO 関係者との接触で TC-142 で進める方向になった WG-C は TS-142Web 会議に参加 11 月の上海会議に出席。
4	H22.11.9	東京・協会　東京事務所	10	WG-B は TC-142 上海会議で WG7 として発足を了承され、推進体制の構築が急務、
5	H23.2.25	東京・協会　東京事務所	10	WG-B 耐久性国際標準化が ISO/TC142WG-7 発足に対し組織・人事・体制の決定と NWIP の検討、来期予定の確認。

9.6　混合・成形分科会　　会員数：87人

（遠藤茂寿 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、竹内洋文　副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、菅原一博　代表幹事[菅原精機㈱]、
藤井　淳　副代表幹事[㈱栗本鐵工所]）

1.　平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度の成果について

第1回分科会　㈱ツムラ茨城工場、漢方記念館見学と講演2題（食品粉体技術分科会と合同）

第1回小委員会　菅原精機㈱　混練性評価について

平成22年度粉体エンジニア早期養成講座「混合・混練」 於：㈱徳寿工作所

第2回分科会　松山大学　粉体工学会・製剤と粒子設計分科会と共催

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.6.8	茨城県・㈱ツムラ　茨城工場	26	漢方記念館と茨城工場（原料倉庫等）と講演 1) 漢方製剤の生産技術 2) 医薬品の圧縮成形技術とこれからの固形製剤
2	H22.11.19	東京・松山大学　文京キャンパス	17	「第 3 回標準処方研究フォーラム」 1) 固形製剤の製造プロセスにおけるキーポイント 2) 混合機及び混合評価の基礎

（幹事会）

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.6.8	茨城県・㈱ツムラ　茨城工場　会議室	9	平成21年度会計報告 今年度の計画、小委員会及び第2回分科会
2	H22.8.20	京都・菅原精機㈱　会議室	11	1) 第 2 回分科会について；松山大学で共催（粉体工学会・製剤と粒子設計部会） 2) 混練性評価小委員会 3) 計装・測定分科会との合同開催について 4) 粉体ｴﾝｼﾞﾆｱ早期養成講座について
3	H22.11.18	愛媛県・松山市「銀次郎」	14	1) 第2回分科会の役割分担 2) 平成23年度分科会の計画

9.7 造粒分科会　　会員数:193人

（村瀬和典　ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、武井　孝　副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、吉原伊知郎　代表幹事[㈱奈良機械製作所]、
桑原敏之　副代表幹事[㈱ダルトン]）

1.　平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度の成果について

- 専門講座を開催。30人の研修生参加で、座学と実際の小型研究機を用いた実習と実施。
- ナイカイ塩業社を施設訪問し、塩の造粒設備見学と人間の塩味感覚に関わる講演を実施。
- 新しいエネルギーに関わる造粒技術を言う演題で、技術討論会を開催。
  広く造粒に関わる新技術、伝統技術を紹介し、新規開発のヒントにして頂く討論、啓蒙を行った。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.9.22	岡山県・ナイカイ塩業㈱ 本社工場	26	1.施設見学会 2.塩事業歴史と技術開発についてのビデオ上映 3.講演「塩味を強く感じられる調味塩」 秋田県立大学　石川　匡子氏
2	H23.3.4	東京・中央大学 後楽園キャンパス	44	技術討論会

（幹事会）

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.9.22	岡山県・ 駅前レストラン	12	1.施設見学会反省 2.技術討論会について
2	H22.11.26	東京・東京ガーデンパレス	9	1.技術討論会について 2.2011年度の年間テーマ 3.工場見学 4.その他
3	H23.3.4	東京・中央大学 後楽園キャンパス	12	1.技術討論会打合せ他 2.技術討論会反省　・来年度案について

9.8 計装測定分科会　　会員数: 81人

（増田弘昭　ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、森　康維　副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、竹内　和　代表幹事[㈱島津総合分析試験センター]、
寶田　馨　副代表幹事[シスメックス㈱]）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度の成果について

1) 第 1 回分科会:第 30 回計装測定講演会。1 月 27 日開催、テーマは粒子画像計測とその応用。
特別講演 2 件、企業講演 5 件。 粉体を扱う上で重要な画像情報について、計測・測定装置とそのアプリケーションを取り上げた。

2) 第 2 回分科会:伝統的粉体技術の見学会である。今回は江戸時代の道中薬の製造・販売元である旧和中散本舗と栗東歴史民俗博物館にて、現存している最大の人力粉砕機をはじめ各種製薬道具や民具を実見し,粉体技術の源流に接することを目的とした。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H23.1.27	東京・大手町 同志社大学東京オフィス	59	「粒子画像計測とその応用」講演会
2	H23.3.11	滋賀県・栗東市	11	江戸時代の製薬道具と民具の見学会 ・大角家旧和中散本舗。栗東歴史民族博物館他

（幹事会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.9.13	京都・新阪急ホテル	4	1. 分科会継続申請について 2. 第 1 回分科会、第 2 回分科会の内容 3. 幹事体制の変更について
2	H23.1.27	東京・大手町　さがみ	9	1. 講演会の総括 2. 第 2 回分科会準備状況について 3. 分科会連絡会議報告 4. 来年度計画について
3	H23.3.11	滋賀県・草津市 ホテルボストンプラザ草津	7	1. 見学会総括 2. 幹事体制変更について 3. 来年度行事計画

9.9　湿式プロセス分科会　　会員数: 82 人

（東谷　公　ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、後藤邦彰　副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、石川　敏　代表幹事[関西金網㈱]、
諏訪精一　副代表幹事[㈱栗田機械製作所]）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度の成果について

- 分科会の年次テーマ「ろ過」をキーワードに、産学連携と会員への情報発信を行った。
- 粉体工学会の技術フォーラムでは、企業からも多くの参加者を得て、活発な情報交換がなされた。
- 第 52 回専門講座では、電池・先端材料における最新の粉体技術を紹介し、好評を得た。

1－2、実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.5.25 ～26	京都・京大会館	(50)	粉体工学会「技術フォーラム」「微粒子の湿式ﾌﾟﾛｾｽ」（晶析、粒子加工、微粒子ﾅﾉﾃｸ、粉体工学会との共催）

（幹事会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.5.26	京都・京都駅ビル 「ITALICO」	3	1.技術ﾌｫｰﾗﾑ反省会 2.粉工展での国際ﾌｫｰﾗﾑについて 3.ｺﾛｲﾄﾞ国際会議について
2	H22.8.3	京都市・同志社大学 微粒子科学技術研究センター、「京すいしん」	6	1. 微粒子科学技術ｾﾝﾀｰ見学 2.専門講座について 3.早期養成講座について 4.その他

（早期養成講座 WG）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.9.14	名古屋・名古屋大学	3	早期養成講座 WG （開催場所、講師、実験装置について）
2	H22.12.22	堺市・大阪府立大学	3	早期養成講座 WG（ﾃｷｽﾄ執筆について）

（早期養成講座小委員会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H23.2.25	大阪・関西金網㈱	8	粉体エンジニア早期養成講座テキスト作成について 1)各講師の顔あわせ 2)執筆内容について 3)執筆要領 4)今後の予定

9.10 粒子加工技術分科会　　会員数: 105人

（川島嘉明　ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、小林征雄　副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、大川原正明　代表幹事[大川原化工機㈱]）

1. 平成 22 年度の事業実績概要
平成 22 年度の成果について
分科会；　第 1 回　H22.6.11、第 2 回　H22.9.2、第 3 回　H22.2.4　計 3 回
幹事会；　第1回　H22.6.10、第 2 回 H22.9.1、第 3 回　H22.10.27、第 4 回　H23.2.3　計 4 回

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）
（分科会）

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.6.11	福島県・東北ニプロ㈱ 郡山ビューアネックスホテル	80 (22)	見学　講演 4 件 1) 開発受託・製造への取組と高付加価値の製剤技術 2) 安定なビモベンダン錠の開発 3) 微粒子製剤からの薬物放出と標準化 4) ヒヤリハット事例から見た望ましい医薬品設計 （粉体工学会「製剤と粒子設計部会」と共催）
2	H22.9.2	三重県・太陽化学㈱	63 (24)	見学　講演 4 件 1) 太陽メソポーラスシリカ TMPS そのナノ空間としての可能性 2) 錠剤の飲みやすさ評価法開発 3) OSDRO（有核錠ワンステップ成形）技術とその応用製剤 4) 特殊なスプレーノズルによるナノ粒子の設計とデリバリー戦略 （粉体工学会「製剤と粒子設計部会」と共催）
3	H23.2 4	徳島県・大鵬薬品㈱	92 (31)	見学　講演 4 件 1) 抗がん剤顆粒剤の製剤設計と包装設計 2) 製剤設計のための造粒トルク測定の意義について-造粒のナレッジベース構築の一助として 3) 製剤開発と品質保証における分析的アプローチ 4) 電子線商社滅菌の概要と医薬品製造の応用 （粉体工学会「製剤と粒子設計部会」と共催）

（幹事会）

回	月・日	場 所	人数	議　題
1	H22.6.10	福島県・郡山ビューアネックスホテル	13 (27)	1.第 1 回見学講演会・役割分担 2.第 2 回分科会　打合せ　他
2	H22.9.1	三重県・四日市市 ロジワールホテル四日市	14 (26)	1.第 2 回見学講演会・役割分担 2.第 3 回分科会　打合せ 3.製剤と粒子設計シンポジウム打合せ　他
3	H22.10.27	石川県・ホテル日航金沢	15 (32)	1.第 3 回分科会　打合せ 2.製剤と粒子設計シンポジウム打合せ　他 （製剤と粒子設計部会　合同幹事会）
4	H23.2.3	福島県・郡山ビューホテルアネックス	14 (27)	1.第 3 回見学講演会・役割分担 2.H23 年度　第 1 回分科会　打合せ 3.製剤と粒子設計シンポジウム打合せ　他

9.11 輸送分科会　　会員数: 91人

（田中敏嗣 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、武居昌宏 副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、赤坂秀一 代表幹事[三興空気装置㈱]、
井上照男 副代表幹事[ツカサ工業㈱]）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

1－1、平成 22 年度の成果について

・異業種との交流をテーマに活動し、第2回分科会は3分科会での合同開催ができた。
（バルクハンドリング分科会・食品粉体技術分科会・輸送分科会）

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場 所	人数	議 題
1	H22.7. 2	原子燃料工業㈱ 熊取事業所	22	1.ウラン燃料棒製造工場の見学 2.講演「プロセストモグラフィー法によるマイクロ流路断面の粒子分布の計測」
2	H22.9.17	岐阜県・㈱モンテール 美濃加茂工場	19 (52)	1.「HACCP システム」に基づいた品質・衛生管理を徹底した産地直結型のスイーツ工場の見学 2.講演「食品工場における洗浄と衛生」 （バルクハンドリング分科会、食品粉体技術分科会と合同）
3	H23.3.11	テーブルマーク㈱ ㈱ユメール MJP	17	1.冷凍食品の最新の製造工場見学 2.連続ジェット洗米流送機工場の見学

（幹事会、小委員会）

回	月・日	場 所	人数	議 題
1	H22.4.16	名古屋・美食 米門 名古屋ﾐｯﾄﾞﾗﾝﾄﾞｽｸｴｱ店	8	1.平成 22 年の年度計画について 2.第 1 回,第 2 回輸送分科会開催について 3.幹事増員について
2	H22.7.2	大阪・うまいもん酒場 西中島南方店	8	1.第 2 回輸送分科会開催について 2.長谷川幹事退任に伴う幹事増員について
3	H22.9.17	岐阜県・芋蔵 駅西店	8	1.第 3 回輸送分科会開催について 2.幹事増員について
4	H22.12.15	大阪・三興空気装置㈱	9	1.新任幹事の紹介 2.第 3 回分科会開催日時と見学先について 3.来年度の計画と予算について 4.個人会員および会友入会候補者の推薦
5	H23.3.10	東京・日本大学	8	1.平成 23 年の年度計画について 2.第 1 回、第 2 回分科会開催について 3.来年度の計画、テーマと予算について

9.12 クリーン化分科会　　会員数: 65人

（藤井修二 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、大谷吉生 副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、渡辺幸次 代表幹事[㈱日立プラントテクノロジー]、
一条和夫 副代表幹事[リオン㈱]、宇治勝幸 副代表幹事[千代田テクノエース㈱]）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度の成果について

- 2 回の分科会と 2 回の幹事会を開催済み。今後幹事会 1 回開催予定。
- 第 1 回分科会は粉体工学会 2010 年度春期研究発表会にて技術フォーラム“最近のクリーン化技術“を開催した。リチウムイオン電池, クリーンルーム, バイオ,ナノ領域等幅広い分野の知見を得ることが出来た。
- 第 2 回分科会は日本エアロゾル学会との共催で, シンポジウム“エアロゾルの測定・分析法の最近の動向”を開催した。エアロゾルの自排微粒子解析, 質量分級, 表面積濃度計, ナノエアロゾル・バイオエアロゾルの分析法や測定法等の知見を得ることが出来た。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.5.25	京都・京大会館	40	技術フォーラム（最近のクリーン化技術） 発表 11 件 （粉体工学会春期研究発表会にて開催）
2	H22.11.9	東京・東京工業大学 西 8 号館 E 棟 10 階　大会議室	18 (66)	エアロゾルの測定・分析法の最近の動向に関する講演会 7 件 （エアロゾル学会との共催シンポジウム）

（幹事会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.5.25	京都・源氏庵（京都市）	8	1.H22 年度分科会計画 2.第 1 回分科会反省等
2	H22.11.9	東京・龍飛（東京都大田区）	7	1.第 2 回分科会反省 2.第 3 回分科会の件 3.専門講座開催について
~~3~~	~~H23.3.29~~	~~東京~~　＊	－	~~1.H22 年度分科会の反省~~ ~~2.H23 活動計画等~~

＊;東日本大震災のため、中止。次年度に延期

9.13 環境エネルギー・流動化分科会　　会員数：42人

（堀尾正靱　ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、幡野博之　副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、鈴木康夫　代表幹事[JFEエンジニアリング㈱]、
高島久継　副代表幹事[㈱奈良機械製作所]）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度の成果について

1) 環境やリサイクルに関する仕組みの問題に関する講演会開催。
2) 新技術の現地調査による複眼的に視野拡大。
3) 3月にはもう 1 件新技術調査を実施する。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.6.11	東京・(独)産業技術総合研究所	12 (32)	環境とリサイクル （リサイクル技術環境分科会と合同）
2	H22.9.30 ～10.1	北海道・ECO リサイクルセンターしらおい、長万部終末処理場ほか	16	ごみの水熱処理燃料化、下水汚泥加圧流動燃焼システム
3	~~H23.3.18~~	~~東京都・清瀬水再生センター~~ （＊）	－	~~流動層ガス化炉~~

＊:東日本大震災のため中止。

（幹事会、小委員会）

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.6.11	東京・(独)産業技術総合研究所	4	次回予定について
2	H22.11.20	北海道・洞爺湖	5	次回予定について
3	~~H23.3.14~~	~~清瀬付近~~　（＊）	－	~~来年度計画について~~

＊:東日本大震災のため中止

9.14 晶析分科会　　会員数: 59 人

（柘植秀樹 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、尾上　薫　副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、山崎康夫　代表幹事（[日本化学工業㈱]、
高橋謙之　副代表幹事[月島機械㈱]、橘高幸志　副代表幹事[味の素㈱]）

1.　平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度の成果について

・マイクロリアクターによる晶析に関する講演会などを通じて事例を収集し共通点からモデル化する端緒を得た。
・元コーディネータの退官を機に多形に関するワーキンググループなどこれまでの活動を振り返り今後の分科会の方向性について検討した。
・来年度に専門講座を開催する事前打合せを行った。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.5.26	京都・京大会館	(50)	粉体技術フォーラム
2	H22.8.2	京都・同志社大学	46	微粒子合成、微粒子ハンドリングのためのマイクロ流路の利用 講演 5 件 1.ナノ粒子研究開発ツールとしてのマイクロ空間化学技術　　産業技術総合研究所　前田英明　氏 2.流通式管型反応器による半導体ナノ粒子の連続調製−反応器形式の影響− 山形大学　宍戸昌広　氏 3.マイクロ化学デバイスの開発 徳島大学　外輪健一郎　氏 4.YMC のマイクロリアクター技術紹介 ワイエムシー㈱　大西広昇　氏 5.マイクロ流路を用いた微粒子分級・配列制御 同志社大学　土屋活美　氏
3	H22.12.3	東京・明治大学紫紺館	23	結晶多形、アフリカ・中東での豊富な経験談やワイン中の酒石酸の晶析分離、富山県医薬品産業について 1.結晶多形に関する研究あれこれ 兵庫県立大学　北村光孝　氏 2.いつかきた道 千代田化工建設株　若林　譲　氏 3.富山県の挑戦　−医薬品製造業の飛躍のために− 富山大学　城石昭弘　氏

（幹事会）

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.5.26	京都・「ITALICO」京都店	5	1.オーストラリアの界面シンポジウム 2.第 1 回分科会（技術フォーラム）を振り返って 3. POWTEX2010 でのミニ国際フォーラム
2	H22.8.2	京都・同志社大学	6	1.第 2 回分科会を振り返って 2.第 3 回分科会/次回幹事会
3	H22.9.8	京都・ホテルグランヴィア京都	10	1.第 3 回分科会 2.来年度の専門講座
4	H22.12.3	東京・明治大学	7	1.平成 23 年度事業計画 2.専門講座について 3. ACHEMA2012 でのフォーラム

（小委員会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.5.27	京都・協会本部	5	1.2010 年の分科会および研究会の行事計画 2.研究会の幹事、世話人リストの作成 3.他グループとの連携 4.分科会の幹事について
2	H22.12.3	東京・東京ビッグサイト	10	1.晶析情報フォーラム「ナノパーティクルテクノロジー関連」を振り返って 2.MRT とナノテクの今後の動向に関する意見交換 3.International Technology Forumu2012 について 4.議事録の雑誌投稿の提案
3	H23.1.28	千葉県・千葉工業大学	7	1.平成 23 年度事業計画/次回幹事会 2.専門講座 3.International Technology Forum2012

9.15 微粒子ナノテクノロジー分科会　　会員数：98人

（神谷秀博　ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、宮原　稔 副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、左合澄人　代表幹事[㈱ノリタケカンパニーリニテド]、
福井武久 副代表幹事[㈱栗本鐵工所]）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度の成果について

第1回分科会：「微粒子の湿式プロセス」をテーマに、微粒子の設計、製造から応用まで、計17件の発表（招待講演4件、研究報告3件、技術報告10件）があり、活発な討論がなされた。

第2回分科会：「ナノ粒子の創製と応用」をテーマに、4件の講演と、栗本鐵工所の見学を予定。

その他に、「戦略的国際科学技術協力推進事業　日本－フィンランド研究交流　新規炭素系ナノ物質による高性能リチウム電池負極　特別講演会」、「粉体工業技術センター教育部門　第10回粉体工学特別講座」に協賛、東京粉工展2010においてミニ技術フォーラムを開催した。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.5.25～26	京都・京大会館	50	「微粒子の湿式プロセス」
2	H23.1.24	大阪・栗本鐵工所㈱	50	「ナノ粒子の創製と応用」

（幹事会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.5.26	京都・「ITALICO」	10	1.技術フォーラム反省会 2.東京粉工展ミニフォーラム企画検討 3.界面シンポジウム（豪）対応検討
2	H22.6.14	京都・京都大学 桂校舎	11	1.第2回分科会企画検討 2.東京粉工展ミニフォーラム企画検討 3.今後の活動について
3	H22.10.8	東京・協会 東京事務所	8	1.第2回分科会企画検討 2.東京粉工展ミニフォーラム企画検討 3.分科会発足10周年事業検討
4	H22.11.19	京都・「美濃吉」京都新阪急ホテル店	6	1.第2回分科会最終確認 2.東京粉工展ミニフォーラム最終確認
5	H22.12.1	東京・東京ビッグサイト	10	1.東京粉工展ミニフォーラム反省 2.ACHEMA2012 について

9.16　電池製造技術分科会　　会員数：400人

（境　哲男　ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、堤　敦司　副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、仲田眞三　代表幹事[アイシン産業㈱]、
大石鮎太　副代表幹事[ホソカワミクロン㈱]、鈴木弘充　副代表幹事[日清エンジニアリング㈱]）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度の成果について

1) 粉体処理技術をベースとした最先端電池技術動向の紹介
2) 本格的電池需要の拡大に伴う参加者の激増(三回の開催で約350名の参加

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.5.7	東京・東大生産技術研究所(駒場)	125	講演5題 1)「次世代電池の展望」 トヨタ自動車㈱　射場英紀　氏 2)「燃料電池実用化の進展」 ㈱東芝　岩崎和市　氏 3)「セラミック系固体リチウムイオン電池の展望」 物質・材料研究機構　高田和典　氏 4)「エネルギースパクリングを可能とする燃料電池/電池」　東京大学　堤　敦司　氏
2	H22.11.5	大阪府・池田市 産総研関西センター	175	講演5題 1)「次世代リチウムイオン電池の開発と粉体技術」　日立マクセル　長井　龍　氏 2)「高出力大容量電池/ギガセルの開発と利用システム」　川崎重工業　堤　香津雄　氏 3)「炭素系負極材料の基礎と今後の展望」 大阪ガス　藤本宏之　氏 4)「リチウムイオン電池の連続製造プロセス」 プライミクス　大畠　積　氏
3	H23.1.28	北九州・博多市　ヒルトンシーホーク	58	講演4題 1)「リチウムイオン電池用正極活物質」 戸田工業　貞村英昭　氏 2)「次世代電池用正極材料の開発動向」 九州大学　岡田重人　氏 3)「電力貯蔵用二次電池の開発」 三菱重工業　橋本　勉　氏 4)「電池材料の粒度調整と焼成技術」 日清エンジニアリング　秋山　聡　氏

（幹事会）

回	月・日	場　所	人数	議　題
1	H22.5.7	東京・東大生産技術研究所	10	1. 第 1 回分科会の運営確認 2. 次回以降の開催案協議
2	H22.11.5	大阪府・池田市 産総研関西センター	8	1.2010 年度の第 3 回宿泊型分科会について 2.2011 年第 1 回分科会について 3.2011 年第 2 回分科会について
3	H23.1.28	北九州・博多市　ヒルトンシーホーク	9	1.2011 年度第 1 回分科会について 2.2011 年度第 2 回分科会について 3.2011 年度第 3 回宿泊型分科会について 4.幹事会社追加について

9.17 リサイクル技術分科会　　会員数：183人

（大矢仁史 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、外川健一 副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、石田外茂二 代表幹事[新東工業㈱]、
蓮池達央 副代表幹事[㈱椿本バルクシステム]）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度の成果について

1) 金属資源のリサイクルでは、小型家電の回収モデル事業として秋田、大牟田に続き茨木での取組みについて取上げた。これで、現在展開中の全てのモデルの見学や講演ができた。
2) 経産省の3R ロードマップ作成に関与した講師を招き、あらためてロードマップの意義とその活用の方法を勉強できた。
3) 粉砕分科会との合同開催や環境資源工学会への協賛参加など、外部との交流を推進できた。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場 所	人数	議 題
1	H22.6.11	東京・産業技術総合研究所 臨海副都心センター	26 (38)	1.講演 2 件 1) 環境と3Rロードマップ 2) プラスチックのリサイクルの現状と課題 2.商品紹介：木質バイオマス搬送機器 （環境エネルギー・流動化分科会と合同）
2	H22.8.4	東京・㈱リーテム 東京工場	35	1.講演会： レアメタルリサイクルの取組みと今後の方向性 2.商品紹介：造粒リサイクル設備 3.見学会：リーテム殿家電等リサイクル設備

（幹事会）

回	月・日	場 所	人数	議 題
1	H22.6.11	東京・お台場 タイム24	7	第 2 回分科会の検討
2	H22.8.4	東京・平和島駅前喫茶	6	11月の環境資源工学会への共催と参加
3	H22.11.3	北九州市・カンポの宿	7	H23 年度事業計画の検討
4	H22.11.4	北九州市・国際会議場	6	環境資源工学会「ﾘｻｲｸﾙ技術ﾌｫｰﾗﾑ」へ参加
5	H23.1.14	東京・ミーティングプラザ	6	H23 年度事業計画の検討

9.18 電子写真技術分科会　　会員数：３４５人

（日高重助 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、竹内 学 副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、畠中 伸 代表幹事[ホソカワミクロン㈱]、
乾 薫 副代表幹事[日本ニューマチック工業㈱]）

1. 平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度の成果について

1) 期初に 2 回／年の分科会開催を計画し、6 月に綜研化学㈱殿にて第 1 回分科会を実施。ツイストボール型PLD（電子ペーパー）・アクリル系微粒子・乾式微粉分級機などの講演により、参加された各企業の方々に最新技術情報を提供出来たと考える。
2) プロジェクト型から常置型への移行手続きとして、9 月末に分科会廃止・新設申請書（申請発起人・世話役候補の記名含む）、及び正副コーディネータ変更願い（創価大学 松山先生のご協力含む）を提出した。
3) その後のアクションが遅れ、期中の第2回分科会開催は出来なかった。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場 所	人数	議 題
1	H22.6.18	埼玉県・狭山市 綜研化学㈱ 狭山事業所	44	1.綜研化学㈱ 研究所内 見学 2.講演×3 件（電子ペーパー・分級機関連） 3.懇親会 ※綜研化学㈱構内にて実施

（幹事会、小委員会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.4.16	東京・ 協会　東京事務所	6	1.第1回分科会(綜研化学)準備について 2.第2回分科会　素案について 3.分科会移行に伴う幹事充実について

9.19 食品粉体技術分科会　　会員数：132人

（高井陸雄　ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、羽倉義雄　副ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ、山田幸良　代表幹事[日清エンジニアリング㈱]、
宗利浩文　副代表幹事[㈱日清製粉グループ本社]）

1．平成 22 年度の事業実績概要

平成 22 年度の成果について

平成 22 年度も引続き、食品製造において最も重要である『安全・安心』を中心とし、テーマを取り上げて活動してきた。

1) 第 1 回分科会は、平成 22 年 6 月 8 日に混合・成形分科会と合同で㈱ツムラ茨城工場殿のご協力を得て、「原料保管」から「製造工程」までの工場施設と漢方記念館では「漢方の歴史」、「最新の研究成果」の見学をさせて頂いた。また、「漢方製剤の生産技術」、「製剤の圧縮成形技術」の 2 題で講演を頂き、漢方の製造技術について理解を深めることができた。

2) 第 2 回分科会は、平成 22 年 9 月 17 日にバルクハンドリング・輸送分科会と 3 分科会合同で㈱モンテール美濃加茂工場殿のご協力を得て、最新鋭の産地直結型の工場を見学させて頂いた。『安心・安全の確保』のために「HACCP の考え方」、「洋菓子の規範よりも厳しい自主基準の管理」を導入されており、非常に参考になった。更に、講演でも㈱クレオ殿より「食品工場における洗浄と衛生」の演題で、食品工場の現場に沿った内容で非常に勉強になった。

3) 第 3 回分科会は、平成 23 年 2 月 8 日に㈱オニザキコーポレーション殿のご協力を頂き、「美味しいごま」づくりを目指して、原料・製法へのこだわりと高度な衛生管理、更に明確にゾーニングされた新しい工場の見学を予定している。

2．実施した本会合、幹事会、小委員会について（人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す）

（分科会）

回	月・日	場　所	人数	議　　題
1	H22.6.8	茨城県・稲敷郡阿見町 ㈱ツムラ 茨城工場	23 (48)	1.漢方記念館・工場施設の見学 2.『製剤の生産技術』に関する講演 2 題
2	H22.9.17	岐阜県・美濃加茂市 ㈱ﾓﾝﾃｰﾙ　美濃加茂工場	14 (52)	1.最新鋭の産地直結型工場見学 2.『食品工場における洗浄と衛生』の講演 （輸送分科会、ﾊﾞﾙｸﾊﾝﾄﾞﾘﾝｸﾞ分科会と合同）
3	H23.2.8	佐賀県・多久市 ㈱ｵﾆｻﾞｷｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ	25	1.ゴマへのこだわりを追及した工場見学 2.『食品粉砕技術のイノベーション』の講演

（幹事会）

回	月・日	場所	人数	議題
1	H22.6.8	東京・淡路町	10	1.副代表幹事の交代、新幹事の紹介 2.第 1 回分科会の反省 3.第 2 回分科会に向けての打合せ 4.幹事会社の増強等について
2	H22.9.17	愛知県・名古屋市	6	1.第 2 回（拡大）分科会運営委員会報告 2.第 2 回分科会の反省 3.第 3 回分科会に向けての打合せ
3	H23.2.8	福岡県・博多駅近辺	6	1.第 3 回分科会の反省 2.H23 年度の分科会に向けての打合せ

10. 粉体工業技術センター （大川原　武　センター長、辻　義廣　副センター長）

10.1 教育部門（日高重助マネジャー、大川原正明　副マネジャー、齋藤文良　副マネジャー）

1．平成 22 年度の成果について

平成 22 年度の事業実績概要

1）当初計画した行事は順調に開催することができた。

2）新しく粉じん爆発・火災安全研修【中級】を開催し、久しぶりに第 10 回特別講座を開催した。

平成 22 年　開催講座

講座名とタイトル	開催日	開催場所	参加者数
第 29 回粉体入門セミナー（Ⅰ） 「粉とは何だろうか？」～その性質と評価～	H22.6.3～4	京都・ハートピア京都	43
第 30 回粉体入門セミナー（Ⅱ） 「粉をつくりそして利用するために」	H22.6.22～23	京都・ハートピア京都	41
第 31 回粉体入門セミナー（Ⅲ） 「粉をあやつる」	H22.7.14～15	京都・ハートピア京都	56
粉体エンジニア早期養成講座　9 講座 ①第 1 回【粉体工学基礎論】	H22.7.29～30	京都・同志社大学 学研都市キャンパス、 塩野義製薬㈱	15
②第 2 回【計測・測定】	H22.8.23～24	京都・同志社大学 学研都市キャンパス	9
③第 3 回【バルクハンドリングⅠ】 （輸送・供給）	H22.9.6～7	埼玉県・㈱日清製粉 グループ本社	10
④第 4 回【乾燥】	H22.9.16～17	静岡県・大川原化工機 ㈱	10
⑤第 5 回【混合・混練】	H22.10.7～8	神奈川県・㈱徳寿工作 所	11
⑥第 6 回【分級】	H22.10.12～13	埼玉県・日清エンジニアリング㈱、神奈川県・㈱徳寿工作所	12
⑦第 7 回【粉砕】	H22.10.14～15	栃木県・㈱セイシン企業	12
⑧第 8 回【バルクハンドリングⅡ】 （貯槽）	H22.11.4～5	兵庫県・東洋ハイテック㈱	9
⑨第 9 回【粒子加工】	H22.11.11～12	静岡県・フロイント産業 ㈱	7
第 51 回粉体技術専門講座 －基本的造粒装置の原理と構造の理解及び その運転体験（ﾊﾟﾗﾒｰﾀ変化による原因と結果－ 企画：造粒分科会	H22.8.25～26	東京・中央大学 後楽園キャンパス	30
第 52 回粉体技術専門講座 ～粉体分離操作の最新技術と電池・先端材料への応用～ 企画：分級ふるい分け分科会・湿式プロセス分科会	H22.11.1	愛知県・名古屋国際センター	48
第 53 回粉体技術専門講座 ～粉砕技術とエコ・リサイクル～ 企画：粉砕分科会・リサイクル技術分科会	H23.1.13～14	東京・住友金属鉱山㈱ 本社会議室	49
2010 粉じん爆発・火災安全研修【初級】 企画:粉じん爆発委員会	H22.11.12～13	京都府・同志社大学 学研都市キャンパス	92
2010 粉じん爆発・火災安全研修【中級】 企画:粉じん爆発委員会	H23.3.10～11	東京都・(独)労働安全衛生総合研究所	63
第 10 回粉体工学特別講座	H22.11.19	京都・京都ﾀﾜｰﾎﾃﾙ	38

10.2 製造事業部門（豊見　昭 マネジャー、鈴木昭明 副マネジャー）

1．平成22年度の成果について

1）売上高について

平成22年4月より11月までの8ヶ月間の売上高は、平成22年度計画予算に対し101%とほぼ計画通りに推移している。

一昨年のリーマンショックによる売上げの落ち込みは約 6 ヶ月間続いたが、その後は、エコカー助成金施策、ハイブリッドカー及び電気自動車への開発志向等が推進力となり、昨年度、本年度はショック以前の状態に戻っている。

2）平成22年度の重要項目の実施の状況

－電気・電子－砂じん(塵)試験用粉じん・砂(JIS C 60028-2-68, IEC 60068-2-68 準用)の開発及び商品化

ホソカワミクロン㈱にて、使用材料選定、製造方法等の事前調査を終えた。今後、試作及び試作品の物性評価、製造規格作成等を経て、23年度初期に事業化を目指す。

2．平成22年度収支の状況（単位：千円）

年　度	平成22年度予算		平成22年度　決算				平成21年度決算
項　目	金額（千円）	内訳比（%）	金額（千円）	内訳比（%）	対予算比（%）	対21年決算比（%）	金額（千円）
収　入	78,000	100	79,524	100	101.9	94.6	83,978
事業費	57,400	73.2	56,367	70.9	98.2	93.2	60,416
収入－事業費	20,600	26.8	23,157	29.1	112.4	98.2	23,562

注：収入及び事業費には、運賃及び消費税が含まれる。

10.3 産学技術交流推進部門（竹内　和マネジャー、菅原一博副マネジャー）

1．平成22年度の成果について

平成22年度より、同志社大学微粒子科学技術研究センターとタイアップして、粉体業界と学界研究者との共同研究、技術交流、技術相談及び情報交換等の促進を目指すため、新しく本部門が設けられた。

1）主な活動

・PRパンフレットを作成し、協会会員へのPRに努めた。

・第1回委員会（9月1日(水)）を開催し、PR活動、利用状況、今後の利用促進活動について打合せを行った。

2）主な成果

・微粒子科学技術研究センターを会場とする講座の開催

7月29日　　粉体エンジニア早期養成講座（粉体工学基礎論）

8月23、24日　　同　　上　（計測・測定）

9月28、29日　粉じん爆発・火災安全研修（初級）

・技術相談の依頼　9件

共同研究、委託研究へ移行する案件を含んでおり、今後の推移を見守りたい。

・粉体技術セミナーの開催（H23．2．25（金）　10:00～17:00）

テーマ：粉体技術開発に役立つ粉体シミュレーション

場　所：京都・京都タワーホテル　9階　飛雲の間

参加者：約100名　（参加無料）の参加があり、盛況であった。

このセミナーを通じて、技術相談の案件が増加した。

11．技術情報交流懇話会

11.1 火曜会（東京）

回	月・日	当番会社	出席者数	場所	講 演 題 目	講　　師
250	4.13	㈱マツボー	72	東京・東京ｶﾞｰﾃﾞﾝﾊﾟﾚｽ	遠距離交際と近所づきあい－人生を豊かにするネットワーク	一橋大学 イノベーションセンター所長 西口敏宏　氏
251	7.13	フルード工業㈱	84	同　上	我がルーツ・・・ギリシャを訪ねて	小泉八雲（ﾗﾌｶﾃﾞｨｵﾊｰﾝの）孫　　稲垣明男　氏

252	10.5	東京アトマーザー製造㈱	100	同 上	伝統と革新-ニッポン製造業の後継者育成に求められる普遍性	ハーネマンアカデミー 学長　永松昌泰 氏
253	H23. 1.11	㈱徳寿工作所	117	同 上	琵琶かたり	音工房 喜音[KION] 主宰 平 喜世 氏

11.2 水曜会（名古屋）

回	月・日	当番会社	出席者数	場所	講 演 題 目	講　師
35	6.12	新東工業㈱	46	名鉄ニューグランドホテル	化学物質の国際的な排出規制と最新の処理技術について	名古屋大学大学院 工学研究科 教授 松田仁樹 氏
36	11.26	㈱ダルトン	44	同 上	余熱･･･冷めない情熱を世の為に役立てる	劇作家 土井 陽子 氏
37	H23. 2.16	アマノ㈱	37	同 上	サッカーにおける組織論	神奈川県サッカー協会 名誉会長 鈴木 中

11.3 木曜会（大阪）

回	月・日	当番会社	出席者数	場所	講 演 題 目	講　師
180	5.13	菅原精機㈱	66	大阪・ANA クラウンプラザホテル	己に腹を立てよ	心華寺金港弁財天 住職 （心華寺研修道場道場長） 斯波最誠 氏
181	9.9	アサダメッシュ㈱	78	同 上	世界における太陽電池事業の今後の動向	㈱ムラカミ 執行役員技術部長 増利賢治 氏
182	12.9	真鍋工業㈱	96	同 上	忘年会（ビンゴゲーム他）	
183	H23. 3.10	アイシン産業㈱	62	同 上	落語 2 席	噺家 林家 卯三郎氏

11.4 金曜会（福岡）

回	月・日	当番会社	出席者数	場所	講 演 題 目	講　師
34	6.25	大盛工業㈱	38	博多・都ホテル	水溶液を利用したセラミックスの新規プロセシングと機能材料への展開	九州工業大学大学院 生命体工学研究科 准教授 宮崎敏樹 氏
35	10.22	寿工業㈱	36	広島・広島GIホテル	検定用の標準粒子の動向と最近の粒子分級技術	広島大学大学院 工学研究院 教授 吉田 英人 氏
36	H23. 3.25	日本澱粉工業㈱	37	鹿児島県・日本澱粉工業	1.会社概要と人材育成について 2.新規糖質アンヒドロースについて	日本澱粉工業㈱ 竹内康二 氏 吉永一治 氏

12. 特別事業

12.1 規格関連事業

1) 国際規格

新しく発行されたISO規格（協会関与分　　1件）

ISO 9277: 2010　ガス吸収による固体の比表面積の測定―BET 法

Determination of the surface area of solids by gas adsorption –BET method

2) 日本工業規格

新しく発行された日本工業規格（協会関与分　2 件）

JIS Z 8831-2: 2010　粉体（固体）の細孔径分布及び細孔特性－第 2 部：ガス吸着によるメソ細孔及びマクロ細孔測定方法

Pore size distribution and porosity of solid materials—Part 2: Analysis of mesopores and macropores by gas adsorption

JIS Z 8831-3：2010　粉体（固体）の細孔径分布及び細孔特性－第 3 部：ガス吸着によるミクロ細孔の測定方法

Pore size distribution and porosity of solid materials—Part 3: Analysis of micropores by gas adsorption

3) 外部団体依頼による規格関連審議の委員会に次の委員を派遣した。

①ISO/TC10/SC10(図・記号表示):石浦　総氏(千代田化工建設)

②(社)土木学会 ISO 対応特別委員会:内海　良治氏(元　名工研)

③ISO/TC229 Nano:　増田　弘昭氏(京大名誉教授)

④ISO/TC142,TC146:　米田　仡氏(元　新東工業)

⑤(独)産業技術総合研究所「圧蜜粉体のせん断特性の測定方法」標準化推進委員会:遠藤　茂寿氏ほか 7 名を委員として派遣

13. 共催・協賛及び後援行事　(H22.4.1～H23.3.31)

13.1 共催 (5 件)

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第45回技術討論会および製品紹介展示	H22.6.15～6.16	東京・アルカディア市ヶ谷	粉体工学会
第27回エアロゾル科学・技術研究討論会	H22.8.3～8.5	名古屋大学・シンポジオン	日本エアロゾル学会、第27回エアロゾル科学・技術研究討論会
第48回粉体に関する討論会	H22.10.20～10.22	香川県・高松市　e-とぴあかがわ情報通信交流館	第48回粉体に関する討論会
第7回エアロゾルシンポジウム	H22.11.9	東京・東京工業大学　大岡山キャンパス	日本エアロゾル学会
第44回化学工学の進歩講習会	H22.11.11～11.12	名古屋・中部大学名古屋キャンパス	化学工学会東海支部、化学工学会分離プロセス部会

13.2 協賛 (29件)

行事名	開催日	開催場所	主催団体
WCPT2010 (World Congress on Particle Technology)	H22.4.26～4. 29	ドイツ・ニュルンベルク(Powtech2010と同時開催)	WCPT2010 実行委員会
「Convertech JAPAN 2010」「新機能性材料展2010」「Printable Electronics 2010」「nano&neo 新機能性材料展」	H22.4.7～4.9	東京・東京ビッグサイト	㈱加工技術研究会
第35回シカゴ粉体工業展(International Powder & Bulk Solids 2010)	H22.5.4～5.6	米国・シカゴ	CANON Communications LLC
色材セミナー「環境・省エネに配慮した色材開発の最新動向」	H22.5.14	大阪・大阪科学技術センター　小ホール	(社)色材協会　関西支部
FOOMA JAPAN 2010 国際食品工業展	H22.6.8～6.11	東京・東京ビッグサイト	(社)日本食品機械工業会
プレISCC2010空気清浄とコンタミネーションコントロール研究発表会	H22.6.9～6.10	東京・東工大蔵前会館	(社)日本空気清浄協会
固液分離講座 －固液分離の基礎から実際までー(案)	H22.6.11	名古屋・名古屋市工業研究所	化学工学会東海支部、化学工学会分離プロセス部会
第56回粉体工学研究講習会「医薬品の製剤設計、工程設計と品質保証」	H22.6.14	東京・アルカディア市ヶ谷	粉体工学会
色材分散講座 -分散の基礎と応用-	H22.7.7	大阪・大阪科学技術センター　小ホール	(社)色材協会　関西支部
第8回技術講演会	H22.7.14～7.15	京都・京都国際会館	新製剤技術とエンジニアリングを考える会
TECHO-FRONTIER 2010 「第10回 2010熱設計・対策技術シンポジウム」「第24回2010EMC・ノイズ対策技術シンポジウム」	H22.7.21～7.23	東京・東京ビッグサイト	(社)日本能率協会

第43回塗料講座　ーコーティングの基礎から実践-	H22.8.4 ～8.5	大阪・大阪科学技術センター　小ホール	(社)色材協会　関西支部
粒子・流体プロセス技術コース2010(第24回流動層技術コース)	H22.8.25 ～8.26	東京・産業技術総合研究所、東京工業高等専門学校	化学工学会粒子・流体プロセス部会　流動層分科会
分析展2010・科学機器展2010　合同展示会	H22.9.1 ～9.3	千葉県・幕張メッセ国際展示場	(社)日本分析機器工業会、日本科学機器団体連合会
第8回産業爆発の危険性、予防、防護に関する国際シンポジウム	H22.9.5 ～9.10	慶應義塾大学　日吉キャンパス	第8回産業爆発の危険性、予防、防護に関する国際シンポジウム　実行委員会
第20回国際コンタミネーションコントロールシンポジウム（ISCC2010）	H22.10.5 ～10.9	東京・タワーホール船堀	(社)日本空気清浄協会
色材講演会	H22.10.13	大阪・大阪科学技術センター	(社)色材協会　関西支部
第10回日中流動層シンポジウム	H22.11.17 ～11.19	東京大学・生産技術研究所コンベンションホール	化学工学会粒子流体プロセス部会流動層分科会
フーテックアジア2010	H22.11.18 ～11.20	マリンメッセ福岡	㈱日報アイ・ビー
第35回顔料物性講座	H22.11.19	東京・東京塗料会館	(社)色材協会、顔料物性研究会、顔料技術研究会
INTERMEASURE 2010（第24回国際計量計測展）	H22.11.24 ～11. 26	東京・東京ビッグサイト	(社)日本計量機器工業連合会
日本エネルギー学会「リサイクル・ハバイオマス・ガス化」三部会(RGB) シンポジウム	H22.11.26	東京・エッサム　本社ビル	一般社団法人　日本エネルギー学会
第16回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム	H22.12.6 ～12.7	新潟・新潟大学サテライトキャンパス「ときめいと」	化学工学会　粒子・流体プロセス部会(流動層分科会)
第23回CES21講演会「ナノ粒子利用技術の最新動向：医療ライフサイエンス分野への挑戦」	H23.2.4	大阪・大阪市立大学文化交流センター	(社)化学工学会関西支部CES21
第20回顔料分散講座	H23.2.4	東京・東京塗料会館	(社)色材協会
Convertech JAPAN 2011 新機能性材料展2011 Printable Electronics 2011 環境電池製造展2011	H23.2.16 ～2.18	東京・東京ビッグサイト	㈱加工技術研究会
GMPセミナー「医薬品に関わる経営戦略とGMP設備の最新トレンド：講演会＆見学会」	H23.2.9 ～2.10	大阪・大阪科学技術センター	(社)化学工学会関西支部
無機複合プラスチック・無機/有機ハイブリッド材料の研究動向	H23.3.4	愛知県・愛知県産業労働センター	(独)産業技術総合研究所　中部センター
第26回塗料・塗装研究発表会	H23.3.11	東京・工学院大学新宿キャンパス	日本塗装技術協会

13.3 後援 （2件）

行事名	開催日	開催場所	主催団体
センサエキスポジャパン2010	H22.11.24 ～11.26	東京ビッグサイト	日本工業新聞社
第7回成形技術研究会	H22.12.8	東京・旭化成ケミカルズ㈱	成形技術研究会

14. 刊行物

14.1 「粉体技術」

編　集　　(社)日本粉体工業技術協会 「粉体技術」編集委員会
発　行　　(社)日本粉体工業技術協会
月刊誌　　(1,530 円・税込) (A4 版 約 100 ページ 約 1,500 部/月)

14.2 事業案内（和文　2010/2011 年度版）
編　集　　(社)日本粉体工業技術協会　総務委員会
発　行　　平成 22 年 6 月 （A4 版、11 ページ、500 部）
平成 22 年 9 月 （A4 版、11 ページ、800 部）

14.3 事業案内（英文　2010/2011 年度版）
編　集　　(社)日本粉体工業技術協会　総務委員会
発　行　　平成 22 年 10 月 （A4 版、6 ページ、400 部）

14.4 第 29 回粉体入門セミナーⅠ　テキスト
主 催　　(社)日本粉体工業技術協会
企　画　　粉体工学会
発 行　　平成 22 年 6 月 3 日(A4 版、193 ページ、50 部)

14.5 第 30 回粉体入門セミナーⅡ　テキスト
主 催　　(社)日本粉体工業技術協会
企　画　　粉体工学会
発 行　　平成 22 年 6 月 22 日(A4 版、203 ページ、55 部)

14.6 第 31 回粉体入門セミナーⅢ　テキスト
主 催　　(社)日本粉体工業技術協会
企　画　　粉体工学会
発 行　　平成 22 年 7 月 14 日(A4 版、224 ページ、63 部)

14.7 第 51 回粉体技術専門講座　テキスト
主 催　　(社)日本粉体工業技術協会
企　画　　造粒分科会
後 援　　粉体工学会
発 行　　平成 22 年 8 月 25 日(A4 版、87 ページ、55 部)

14.8 第 52 回粉体技術専門講座　テキスト
主 催　　(社)日本粉体工業技術協会
企　画　　分級ふるい分け分科会・湿式プロセス分科会
後 援　　粉体工学会
発 行　　平成 22 年 11 月 1 日(A4 版、137 ページ、63 部)

14.9 第 53 回粉体技術専門講座　テキスト
主 催　　(社)日本粉体工業技術協会
企　画　　粉砕分科会・リサイクル技術分科会
後 援　　粉体工学会
発 行　　平成 23 年 1 月 13 日(A4 版、107 ページ、80 部)

14.10 第 10 回粉体工学特別講座
主 催　　(社)日本粉体工業技術協会
後 援　　粉体工学会
協 賛　　同志社大学微粒子科学技術研究センター
(社)日本粉体工業技術協会微粒子ナノテクノロジー分科会
粉体工学会粉体ナノテクノロジー研究会
発 行　　平成 22 年 11 月 19 日(A4 版、62 ページ、50 部)

14.11 粉じん爆発・火災安全研修【初級】 ppt 資料
編　集　　(社)日本粉体工業技術協会　粉じん爆発委員会
発 行　　平成 22 年 9 月 28 日(A4 版、130 ページ、130 部)

14.12 粉じん爆発・火災安全研修【中級】 ppt 資料
編　集　　((社)日本粉体工業技術協会　粉じん爆発委員会
発 行　　平成 23 年 3 月 10 日(A4 版、88 ページ、110 部)